

## 北陸大学学術フロンティア

### —健康障害の分子機構解明を基盤とした予防薬学研究—

北陸大学学術フロンティア研究組織

共同研究推進班

澤西 啓之

鍛冶 利幸

渡辺 和人

北陸大学学術フロンティア事業「健康障害の分子機構解明を基盤とした予防薬学研究」の第4年度である平成20年度は、最終平成21年度の総仕上げに向かって進む重要な1年となった。振り返れば、平成19年度は「それぞれの課題について、健康障害の細胞・分子レベルでの解析が予防のメカニズムを提起できる程度にまで進展し、予防（場合によっては治療）に有用な物質の探索を一定程度進展させること」（構想調書）を達成目標として共同研究拠点形成に努力を傾注し、また、若手研究者の育成と活性化に積極的に取り組んできた。

平成17年度から平成19年度半ばまでの北陸大学学術フロンティア活動をまとめた「研究進捗状況報告書」を昨年9月に文部科学省に提出した。評価結果は、平成20年10月に書面で通知された。その評価を要約すると「プロジェクトの中心をになう主な研究者の役割は明確であり又、他大学研究機関からの支援体制も十分に組織されている」「大学院生・PDの活用も積極的に行われている」「プロジェクトの進行に適切な設備が整備されており又、利用状況も良好である」「研究面で着実な進捗がみられる」「シンポジウム等による積極的な成果の公表に努めている」など、個々の評価項目については概ね高い評価であったが、「薬学者だけでは不十分な段階ではないか」「さらに質の高い原著論文の作成が望まれる」「東洋医薬学など視点がユニークである点をもっと追求しては」という指摘と助言も得た。総合的にはAB評価であったが、北陸大学学術フロンティア研究組織としては、この高い評価に確信を持ちつつも、これに甘んじることなく指摘事項の改善を行っているところである。

平成20年度の大きな成果は、何といても若手研究者の成長である。北陸大学学術フロンティア研究組織のもとで研究活動を行っている助教やPDの科学研究費補助金若手研究（B）申請が新たに4件採択され、継続の分と合わせて5件となった。日本人PDの3名は全員が科学研究費補助金の支援を受けることになった。また、PDおよび大学院生が受賞した学会賞は4件に達した。このような若手の活躍は、本人はもとより関係各位の努力の賜物ともいえるものであり、心より敬意を表したい。

平成21年度は、いよいよ最終年度である。整備された研究環境を十分に活用し、拡充

された研究組織の総力を挙げて、北陸大学学術フロンティア事業の完成を目指す所存である。

平成20年12月1日現在の研究組織は以下の通りである。

●研究者

|                   |                                  |
|-------------------|----------------------------------|
| 澤西 啓之 特任教授：       | 代表、共同研究の推進と統括                    |
| 鍛冶 利幸 教授（環境健康学）：  | 副代表、重金属毒性に関する予防薬学研究の展開・推進班（総務担当） |
| 渡辺 和人 教授（衛生化学）：   | 乱用薬物に関する予防薬学研究の展開・推進班（学術集会担当）    |
| 古林 伸二郎 教授（臨床薬理学）： | 糖尿病合併症に関する予防薬学研究の展開              |
| 千葉 賢三 准教授（生化学）：   | 認知症に関する予防薬学研究の展開                 |
| 山本 千夏 准教授（環境健康学）： | 動脈硬化に関する予防薬学研究の展開                |
| 劉 園英 准教授（東洋医薬学）：  | 東洋医薬学を基盤とする予防薬学研究の展開             |
| 安池 修之 准教授（創薬科学）：  | 重金属毒性に関する予防薬学研究展開の支援             |
| 鈴木 宏一 助教（創薬科学）：   | 生活習慣病に関する予防薬学研究展開の支援             |

●ポストドクトラルフェロー

|           |                                   |
|-----------|-----------------------------------|
| 廣岡 孝志 博士： | メチル水銀の毒性発現メカニズムの解析                |
| 新開 泰弘 博士： | 血管細胞機能障害に対する防御応答システムの解析           |
| 竹田 修三 博士： | 大麻成分カンナビノイドの毒性発現の分子機構の解明          |
| 李 代偉 博士：  | $\beta$ -Amyloid の傷害性に対する漢方薬の保護作用 |
| 劉 青原 博士：  | 予防薬学を指向した高機能有機金属化合物の創製            |

●研究支援者

|               |                 |
|---------------|-----------------|
| ンシンバ ミエジ マリエ： | 内皮線溶を制御する天然物の探索 |
|---------------|-----------------|

●リサーチアシスタント

|              |                 |
|--------------|-----------------|
| 秦 薇薇 博士後期課程： | 有機金属化合物の合成研究の支援 |
|--------------|-----------------|

●研究補助

|        |                   |
|--------|-------------------|
| 栗原 由美： | 本フロンティア事業に係る研究の補佐 |
|--------|-------------------|

●共同研究推進班事務補佐

尾林 栄子： 本フロンティア事業に係る事務の補佐

●事務

杉本 静夫： 事務責任者

大桑 優子： 事務担当者

橋 伊勢子： 事務担当者

●客員研究員

安武 章 室長 国立水俣病総合研究センター 生化学室

内山 真伸 准主任研究員 理化学研究所 基幹研究所 機能元素化学研究室

藤原 泰之 准教授 愛知学院大学 薬学部 衛生薬学講座

信國 好俊 准教授 広島大学 原爆放射線医科学研究所ゲノム障害病理

中 寛史 助教 名古屋大学 物質科学国際研究センター野依特別研究室

## 平成20年度の事業

### 1) 特別講演会の開催

平成20年度は10件の特別講演会を開催した。概要は以下の通り。

第32回特別講演会（平成20年5月16日）世話人：安池 修之

檀上 博史（徳島文理大学香川薬学部解析化学教室・准教授）

ホスフィン化合物の合成戦略

第33回特別講演会（平成20年7月11日）世話人：安池 修之

村藤 俊宏（山口大学大学院医学系研究科応用分子生命科学系専攻理学系・准教授）

非交互共役系の電子特性を活かした有機典型元素化合物の合成と構造特性

第34回特別講演会（平成20年7月11日）世話人：鍛冶 利幸

矢倉 達夫（関西学院大学理工学部・教授）

ヘテロ環有機ビスマス化合物によるヒトがん細胞に対するM期停止作用および微小管重合阻害メカニズムの解析

第35回特別講演会（平成20年7月25日）世話人：鍛冶 利幸

近藤 昌夫（大阪大学大学院 薬学研究科・准教授）

Tight junction modulatorを利用した創薬研究の新展開

第36回特別講演会（平成20年11月14日）世話人：鍛冶 利幸

青木 康展（（独）国立環境研究所・環境リスク研究センター健康リスク評価研究室・研究室室長）

環境リスク評価へのバイオテクノロジーの貢献

第37回特別講演会（平成20年11月21日）世話人：渡辺 和人

山野 茂（福岡大学 薬学部・教授）

ディーゼル排ガス微粒子（DEP）の健康影響-DEPキノンによる活性酸素の産生

第38回特別講演会（平成20年11月28日）世話人：鍛冶 利幸

山田 弘（（独）医薬基盤研究所 基盤研究部・総務部門長）

医薬品開発における安全性評価のパラダイムシフトと新技術の応用

第39回特別講演会（平成20年12月12日）世話人：渡辺 和人

景山 節（京都大学霊長類研究所人類進化研究センター・教授）

ペプシンの多様性と機能分化，および臨床応用

第40回特別講演会（平成20年12月19日）世話人：鍛冶 利幸

堀口 兵剛（自治医科大学・准教授）

イタイイタイ病における腎性貧血～カドミウムのエリスロポエチン産生に対する影響についての基礎的・臨床的研究～

第41回特別講演会（平成21年1月16日）世話人：鍛冶 利幸

衛藤 光明（前国立水俣病総合研究センター・所長）

本邦における水俣病（メチル水銀中毒症）の病理学的研究

## 2）サテライトミーティングの開催

北陸大学学術フロンティア研究組織では，独自の取り組みとして，最新の研究情報を交換し本事業に役立てるだけでなく総合討論を通じて，北陸大学を拠点とする共同研究の基盤を形成することを目的としてサテライトミーティングを開催している。平成17年度は2件，平成18年度は3件，平成19年度は2件の開催の他に，公開シンポジウム1件を開催した。平成20年度は，下記のサテライトミーティングを1件開催した。

北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング

—機能性有機金属の創製とその生体機能解析，毒性及び創薬研究への統合的応用—

日 時：平成20年4月19日（土）～20日（日）

場 所：長浜ロイヤルホテル（滋賀県長浜市）

世 話 人：鍛冶 利幸（北陸大フロンティア）

オーガナイザー：内山 真伸（理研）

佐藤 雅彦（愛知学院大薬）

4月19日（土）

基調講演

バイオオルガノメタリクスの夜明け

鍛冶 利幸（北陸大フロンティア）

第1部 一般講演2（生物系）

Tight junction modulatorを利用した創薬基盤研究

近藤 昌夫（阪大院薬）

環境毒性物質の標的と感受性に関与する遺伝子群の解明

信國 好俊（広島大原医研）

疾病予防におけるメタロチオネインの有用性

佐藤 雅彦（愛知学院大薬）

有機ビスマス化合物のヒトガン細胞に対する生理作用

矢倉 達夫（関西学院大理工）

## 第2部 一般講演2（化学系）

有機亜鉛化合物の設計，解析，新反応，新現象，新機能

内山 真伸（理研）

アンチモンを中心とする典型重元素化合物の創製と機能

安池 修之（北陸大フロンティア）

新しい有機リン塩基試薬の設計と機能

中 寛史（東北大院薬）

## 3）北陸大学学術フロンティア年次研究集会

北陸大学学術フロンティア事業では，研究組織の成果発表の場のみならず北陸大学薬学部の研究の活性化に寄与することを目的として，毎年3月に年次研究集会を開催している。平成19年度の年次研究集会は，「生活習慣病と生活環境病」をテーマに例年通り2日間の日程で開催した。

平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会

日 時：平成20年3月12日（水）－13日（木）

場 所：北陸大学薬学部アネックスファーム 201A 講義室他

テ ー マ：生活習慣病と生活環境病

主 催：北陸大学学術フロンティア研究組織（代表：澤西 啓之）

協 賛：（社）日本薬学会

3月12日（水）

教育講演

環境汚染物質による生活習慣病，生活環境病の増悪とその予防

ーディーゼル排気微粒子を中心にー

高野 裕久（国立環境研）

特別講演1

アルツハイマー病の病態と治療戦略ーワクチン療法の可能性

鍋島 俊隆（名城大院薬）

特別講演2

メタボリックシンドローム・動脈硬化とRAGE

小山 英則（阪大院医）

3月13日（木）

成果発表講演

ストレプトゾトシン糖尿病動物の高血糖と脈絡膜血管新生異常に対する漢方薬粉防已成分FangchinolineとTetrandrineの抑制作用機序

古林 伸二郎（北陸大フロンティア）

Iridoid化合物, genipin, およびその関連化合物の神経栄養因子作用

千葉 賢三（北陸大フロンティア）

#### 一般講演

コモンマーモセットにおけるメチル水銀毒性

安武 章（国立水俣研）

血管構成細胞のプロテオグリカン合成に対する亜ヒ酸の阻害作用

藤原 泰之（愛知学院大薬）

計算化学を基盤とした反応解析・合成設計・物性予測への挑戦

内山 真伸（理研）

空気雰囲気下で行う5価有機アンチモン化合物を利用した効率的園頭型反応

安池 修之（北陸大フロンティア）

Genipin誘導体の神経突起誘導活性と構造活性相関

鈴木 宏一（北陸大フロンティア）

ヒト脳微小血管内皮細胞層に対するメチル水銀の毒性発現

廣岡 孝志（北陸大フロンティア）

動脈硬化の抑止に有用な活性を有する硫酸化多糖類および有機金属化合物

山本 千夏（北陸大フロンティア）

$\beta$ -Amyloid proteinによる細胞障害における漢方複合剤の制御効果

劉 園英（北陸大フロンティア）

ヒトCYP3A分子種に対する主要カンナビノイドの阻害作用

山折 大（北陸大薬）

学術フロンティア成果発表会はフロンティア事業において義務付けされた事項であるが、それを日本薬学会の協賛のもとで学部全体の研究活性化の場として活用するという例は北陸大学学術フロンティア独自のものである。平成19年度は教育講演1題、特別講演2題、成果発表講演2題、一般講演9題、ポスター発表42題の発表が2日にわたって行われ、盛大な学術集会となった。平成20年度の年次研究集会については企画を調整中である。

#### 4) 北陸大学学術フロンティアホームページ

ホームページは、本学フロンティア事業の情報発信の場としてきわめて重要である。平成18年度から開始された写真付き「活動報告最新情報」の逐次的公開を引き続き行った。また、研究組織の拡充や研究成果についても、迅速に公開した。尾林事務補佐が更新業務を担当している。

### 5) 年次報告書の発行

北陸大学学術フロンティア研究組織では、評価を文部科学省任せにせず、年次報告書を作成し自己点検の機会とし、同時に同報告書を関係機関等に寄贈し積極的に評価を受けるという独自の取り組みを行っている。その方針に基づき、平成20年には平成19年度年次報告書を作成・発行した。

### 6) 支援スタッフの充実

支援スタッフの充実による研究の推進力増強と若手研究者の育成は、学術フロンティア推進事業の重要な課題である。いわゆる中間評価において、現在の本学フロンティア事業について「薬学者だけでは不十分な段階ではないか」という指摘があったが、年度当初から名古屋大学物質科学国際研究センターの中 寛史先生と広島大学原爆放射線医科学研究所の信國 好俊先生を客員研究員として登録し、理学と医学の立場から日常的継続的なご支援をいただいている。

### 7) 副次的効果等

北陸大学学術フロンティア研究組織関連の平成20年度科学研究費補助金新規採択数は6件であった。昨年度の新規採択がわずかに1件であったことを考えるとこの飛躍の意義は大きい。平成20年度の科学研究費補助金を受ける研究課題は、継続分と合わせ8件となった。その中に若手研究（B）が5件含まれていることを特に記しておきたい。

平成19年度は若手研究者育成方針のもと一挙6件の学会賞受賞者を輩出したが、今年度も4件の学会賞受賞があった。PDの新開 泰弘君（環境健康学教室）が、6月に東京で開催された第35回日本トキシコロジー学会学術年会において優秀研究発表賞を受賞した。49応募演題から選ばれた5演題に入ったものである。更に新開君は、8月に水俣で開催された第27回チョークトーク“生体と金属・化学物質に関する研究会”でも櫻井賞を受賞した。こちらは応募演題の中から毎年1件だけ選ばれるもので、新開君の発表は抜群の評価を受けたものである。

大学院生からも昨年度に引き続き授賞者が出た。10月に熊本で開催された日本薬学会環境・衛生部会主催のフォーラム2008：衛生薬学・環境トキシコロジーにおいて、杜 可君と宮内 靖世さん（ともに環境健康学教室）がフォーラム2008実行委員長賞を受賞した。48応募演題の中から優秀と評価された8演題に入ったものである。この賞を私立大学の修士課程の院生が受賞することは相当に難しく、両人の並々ならぬ努力が最も賞賛されるべきであるが、学術フロンティア事業活動がそれを可能にしたことは疑いない。

北陸大学学術フロンティア事業が開始された平成17年以降の学会賞受賞者は以下の通りである。



## 平成17年度

山本 千夏 日本薬学会環境・衛生部会賞「動脈硬化の進展メカニズムと防御に関する衛生薬学的研究」

## 平成19年度

小西 智子 日本薬学会生物系薬学部会第8回 Pharmaco-Hematology シンポジウム大学院生優秀演題賞「血管内皮細胞のヘパラン硫酸プロテオグリカンの合成を促進する有機アンチモン化合物」

寺田奈緒子 日本薬学会生物系薬学部会第8回 Pharmaco-Hematology シンポジウム大学院生優秀演題賞「トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調節」

秦 薇薇 日本薬学会北陸支部大学院優秀発表賞「Triarylantimony Diacetates as Pseudo-Halides in Base-Free Cross-Coupling Reaction with Organic Boron Reagents」

廣岡 孝志 メタロチオネインおよびメタロバイオサイエンス研究会2007優秀ポスター賞「メチル水銀は傷害した培養脳微小血管内皮細胞層の修復をFGF-2システムの抑制を通じて阻害する」

劉 園英 日本東洋医学会北陸支部奨励賞「 $\beta$ -Amyloid 蛋白による神経細胞死における当帰芍薬散の制御作用に関する研究」

小西 智子 日本薬学会環境・衛生部会フォーラム2007実行委員長賞「血管内皮細胞においてヘパラン硫酸プロテオグリカンの大型分子種パールカンの合成を誘導する有機アンチモン化合物」

## 平成20年度

新開 泰弘 第35回日本トキシコロジー学会学術年会優秀研究発表賞「カドミウムの毒性防御の細胞応答システムを担う転写因子Nrf2」

新開 泰弘 第27回チョークトーク“生体と金属・化学物質に関する研究会”櫻井賞「カドミウムに対する血管内皮細胞の防御応答を担うNrf2/Keap1システム」

杜 可 フォーラム2008 衛生薬学・環境トキシコロジーフォーラム2008実行委員長賞「メチル水銀投与ラット脳の病理組織学的変化：小脳障害のメカニズムに関する新しい仮説」

宮内 靖世 フォーラム2008 衛生薬学・環境トキシコロジーフォーラム2008実行委員長賞「血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞毒性を担うメカニズムとしてのFGF-2システム」

北陸大学学術フロンティア研究組織は、科学研究費補助金などの競争的研究資金に積極的に応募し獲得する活動を進めている。北陸大学学術フロンティア研究組織の発足以降に申請・採択された競争的研究資金は以下の通りである。



1. 研究課題：メチル水銀の神経毒性発現における標的としてのプロテオグリカン代謝異常  
研究代表者：鍛冶 利幸  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（B）  
研究期間：平成18年度～平成21年度
2. 研究課題：アディポネクチンによる血管平滑筋細胞プロテオグリカン代謝の制御  
研究代表者：山本 千夏  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）  
研究期間：平成18年度～平成19年度
3. 研究課題：無機ヒ素による血管細胞機能障害の分子メカニズム  
研究代表者：藤原 泰之  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）  
研究期間：平成18年度～平成20年度
4. 研究課題：超原子価結合を持つ有機アンチモン化合物の合成とその有機合成試薬としての活用  
研究代表者：栗田 城治  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）  
研究期間：平成17年度～平成19年度
5. 研究課題：大麻吸煙抽出物中の変異原性物質に関する研究  
研究代表者：舟橋 達也（共同研究者：渡辺 和人）  
財団法人日本科学協会平成18年度笹川科学研究助成
6. 研究課題：フェロセン骨格から成る新規アンチモン化合物の合成とその触媒配位子能  
研究代表者：秦 薇薇（共同研究者：安池 修之）  
財団法人日本科学協会平成18年度笹川科学研究助成
7. 研究課題：メチル水銀の神経毒性発現に関与する脳浮腫発生の分子機構  
研究代表者：廣岡 孝志  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）  
研究期間：平成19年度～平成20年度

8. 研究課題：漢方薬の作用原理に基づく副作用がない糖尿病治療薬の探索  
研究代表者：古林 伸二郎  
平成19年度（独）科学技術振興機構地域イノベーション創出総合支援事業・重点地域研究開発推進プログラム「シーズ発掘試験」  
研究期間：平成19年7月～平成20年3月
9. 研究課題：主要カンナビノイドの代謝的相互作用を介した毒性発現の分子機構  
研究代表者：渡辺 和人  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）  
研究期間：平成20年度～平成22年度
10. 研究課題：高原子価アンチモン及びビスマスからなる有機合成試薬の開発とその創薬科学への応用  
研究代表者：栗田 城治  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C）  
研究期間：平成20年度～平成22年度
11. 研究課題：メチル水銀による中枢神経障害の発現機構の解明に向けた，細胞外環境分子の解析  
研究代表者：周尾 卓也  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）  
研究期間：平成20年度～平成21年度
12. 研究課題：骨輸送担体を用いた新規慢性関節リウマチ治療薬の開発  
研究代表者：高橋 達雄  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）  
研究期間：平成20年度～平成21年度
13. 研究課題：カドミウムの血管毒性防御の分子機構を担う転写因子Nrf2  
研究代表者：新開 泰弘  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）  
研究期間：平成20年度～平成21年度
14. 研究課題：大麻主成分の臨床適正使用に向けた予防薬学的基礎研究  
研究代表者：竹田 修三  
研究種目：日本学術振興会／文部科学省科学研究費補助金 若手研究（B）  
研究期間：平成20年度～平成21年度

## 8) その他

平成20年11月29日に金沢市で行われた北國生きがい支援事業北陸大学プログラム「長寿県いしかわを目指して」～21世紀の健康と医療～（主催：北陸大学，北國新聞）第2回フォーラムにおいて，鍛冶 利幸 教授が「環境と健康—健康を脅かす環境問題」と題して講演を行いました。また，12月20日に開催された第3回フォーラム～21世紀の健康と医療『プロが教える「長寿への提言」』では，パネラーを務めました。

## 平成21年度に向けて

北陸大学学術フロンティア事業はいよいよ平成21年に最終年度を迎える。中間評価の結果を踏まえて改善を進め，同時に共同研究の拠点としての活動に本格的に取り組む。若手研究者の育成にもこれまで以上に積極的に行う。中間評価の段階では，研究組織は当初の研究目標を基本的に達成したと考えており，その成果を基盤とし，最終年度は過去にはなかった規模での活動を展開したいと考えている。

## 研究業績（平成17年度からの累積）

### 1 総説

- 1) The biological effects of depolymerized sodium spirulan and sulfated colominic acid on vascular cells are beneficial in preventing atherosclerosis, Chika Yamamoto, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **52**, 205–210 (2006)
- 2) 大麻文化科学考（その17）—乱用薬物防止教育—，渡辺和人，木村敏行，舟橋達也，山折大，山本郁男\*，*北陸大学紀要*，**30**，13–21 (2006)（\*九州保福大・薬）
- 3) 大麻文化科学考（その18）—ヒトにおける大麻主成分カンナビノイドの代謝—，渡辺和人，木村敏行，山折大，竹田修三，宇佐見則行\*，山本郁男\*，*北陸大学紀要*，**31**，1–11 (2007)（\*九州保福大・薬）
- 4) Targeted drug delivery to bone; pharmacokinetic and pharmacological properties of acidic oligopeptide-tagged drugs, Tatsuo Takahashi-Nishioka, Koichi Yokogawa\*, Shunji Tomatsu\*\*, Masaaki Nomura, Shinjiro Kobayashi, Kenichi Miyamoto\*, *Curr. Drug Discov. Technol.*, **5**, 39–48 (2008)（\*金沢大・病院薬，\*\*セントルイス大・小児科）
- 5) 動脈硬化進展の鍵分子プロテオグリカン：その特性および合成調節，浦野晶子，山本千夏，藤原泰之\*，鍛冶利幸，*薬学雑誌*，**128**，365–375 (2008)（\*愛知学院大・薬）
- 6) 血管内皮細胞のプロテオグリカン代謝の制御を介した外来性糖鎖の活性，佐藤友子，山本千夏，藤原泰之\*，鍛冶利幸，*薬学雑誌*，**128**，717–723 (2008)（\*愛知学院大・薬）

- 7) 中国医学の食養生, 劉園英, 東アジアの窓No.2, 34-42 (2008)

## 2 学術論文

- 1) Correlation between neuritogenic action of nitric oxide and the rate of nitric oxide production in PC12h cells, Kenzo Chiba, Matsumi Yamazaki, *J. Health Sci.*, **51**, 683-686 (2005)
- 2) An organobismuth compound that exhibits cytotoxicity selectively to vascular endothelial cells *in vitro*, Yasuyuki Fujiwara, Makoto Mitani, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **51**, 333-340 (2005)
- 3) Sodium arsenite inhibits proteoglycan synthesis by vascular endothelial cells in culture, Yasuyuki Fujiwara, Yusuke Nakase, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **51**, 461-468 (2005)
- 4) Proteoglycan synthesis is not influenced by zinc in proliferating bovine aortic endothelial cells in culture, Yasuyuki Fujiwara, Anna H. Plaas\*, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **51**, 720-727 (2005) (\*南フロリダ大・医)
- 5) *In vitro* inhibitory effects of cannabinoids on progesterone 17 $\alpha$ -hydroxylase activity in rat testis microsomes, Tatsuya Funahashi, Hideharu Ikeuchi, Satoshi Yamaori, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*, Kazuhito Watanabe, *J. Health Sci.*, **51**, 369-375 (2005) (\*九州保福大・薬)
- 6) Stimulatory effects of testosterone and progesterone on the NADH- and NADPH-dependent oxidation of 7 $\beta$ -hydroxy- $\Delta^8$ -tetrahydrocannabinol to 7-oxo- $\Delta^8$ -tetrahydrocannabinol in monkey liver microsomes, Tatsuya Funahashi, Yuuki Tanaka, Satoshi Yamaori, Toshiyuki Kimura, Tamihide Matsunaga\*, Shigeru Ohmori\*, Takashi Kageyama\*\*, Ikuo Yamamoto\*\*\*, Kazuhito Watanabe, *Drug Metab. Pharmacokinet.*, **20**, 358-367 (2005) (\*信州大・病院薬, \*\*京都大・霊長研, \*\*\*九州保福大・薬)
- 7) Inhibitory effect of nifedipine on tumor necrosis factor  $\alpha$ -induced neovascularization in cultured choroidal explant of streptozotocin-diabetic rat, Shinjiro Kobayashi, Mizuki Fukuta, Miho Suzuki, Hiroshi Tsuneki\*, Ikuko Kimura\*, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 242-246 (2005) (\*富山医薬大・薬)
- 8) Effective NADH-dependent oxidation of 7 $\beta$ -hydroxy- $\Delta^8$ -tetrahydrocannabinol to the corresponding ketone by Japanese monkey hepatic microsomes, Tamihide Matsunaga\*, Shinsuke Higuchi, Kazuhito Watanabe, Takashi Kageyama\*\*, Shigeru Ohmori\*, Ikuo Yamamoto\*\*\*, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 646-651 (2005) (\*信州大・病院薬, \*\*京都大・霊長研, \*\*\*九州保福大・薬)
- 9) Synthesis of  $N^3$ -substituted uridine and related pyrimidine nucleosides and their antinociceptive effects in mice, Tomomi Shimizu, Toshiyuki Kimura, Tatsuya

- Funahashi, Kazuhito Watanabe, Ing Kang Ho\*, Ikuo Yamamoto\*\*, *Chem. Pharm. Bull.*, **53**, 313–318 (2005) (\*ミシシッピ大, \*\*九州保福大・薬)
- 10) Displacement of opioid receptor binding ligands from the rat brain by *N*<sup>3</sup>-(2',5'-dimethoxyphenacyl) arabinofuranosyluracil, Tomomi Shimizu, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi, Kazuhito Watanabe, Ing Kang Ho\*, Ikuo Yamamoto\*\*, *Res. Commun. Mol. Path. Pharmacol.*, **117/118**, 105–113 (2005) (\*ミシシッピ大, \*\*九州保福大・薬)
  - 11) Synthesis of (3*S*,5*R*)-3,5-diaminoazepan-2-one as a conformationally restricted surrogate of Dab-Gly dipeptide, Ken-ichi Tanaka, Harumitsu Nemoto, Hiroyuki Sawanishi, *Tetrahedron: Asymmetry*, **16**, 1989–1995 (2005)
  - 12) Synthesis of (3*S*,5*S*)-3,5-diaminopiperidin-2-one as a conformationally restricted surrogate of Dab-Gly dipeptide, Ken-ichi Tanaka, Harumitsu Nemoto, Hiroyuki Sawanishi, *Tetrahedron: Asymmetry*, **16**, 809–815 (2005)
  - 13) Antiangiogenic activity of beta-eudesmol in vitro and in vivo, Hiroshi Tsuneki\*, En-Long Ma\*, Shinjiro Kobayashi, Naoto Sekizaki\*, Toshiyasu Sasaoka\*, Min-Wei Wang\*, Ikuko Kimura\*, *Eur. J. Pharmacol.*, **512**, 105–115 (2005) (\*富山医薬大・薬)
  - 14) Stereospecific and regioselective hydrolysis of cannabinoid esters by ES46.5K, an esterase from mouse hepatic microsomes, and its differences from carboxylesterases of rabbit and porcine liver, Kazuhito Watanabe, Tamihide Matsunaga\*, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi, Satoshi Yamaori, Yukihiro Shoyama\*\*, Ikuo Yamamoto\*\*\*, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 1743–1747 (2005) (\*信州大・病院薬, \*\*九州大院・薬, \*\*\*九州保福大・薬)
  - 15) Marijuana extracts possess the effects like the endocrine disrupting chemicals, Kazuhito Watanabe, Erina Motoya, Naoki Matsuzawa, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Tamihide Matsunaga\*, Koji Arizono\*\*, Ikuo Yamamoto\*\*\*, *Toxicology*, **206**, 471–478 (2005) (\*信州大・病院薬, \*\*熊本大, \*\*\*九州保福大・薬)
  - 16) Proteoglycans predominantly synthesized by human brain microvascular endothelial cells in culture are perlecan and biglycan, Chika Yamamoto, Xingyun Deng, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **51**, 576–583 (2005)
  - 17) Proteoglycans released from cultured vascular endothelial cell layers by sodium spirulan are both perlecan and biglycan, Chika Yamamoto, Satomi Shimada, Yasuyuki Fujiwara, Jung-Bum Lee\*, Toshimitsu Hayashi\*, Toshiyuki Kaji, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 32–36 (2005) (\*富山大・薬)
  - 18) Selective promotion of plasminogen activator inhibitor-1 secretion by activation

- of protease-activated receptor-1 in cultured human brain microvascular pericytes: comparison with endothelial cells, Chika Yamamoto, Minako Sugato, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 208–211 (2005)
- 19) Induction of synthesis of a large heparan sulfate proteoglycan, perlecan, by thrombin in cultured human coronary smooth muscle cells, Chika Yamamoto, Takako Wakata, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, *Biochim. Biophys. Acta*, **1722**, 92–102 (2005)
  - 20) Inhibition of cultured bovine aortic smooth muscle cell proliferation by colominic acid, Chika Yamamoto, Shinya Yamaguchi\*, Toshimitsu Hayashi\*\*, Toshiyuki Kaji, *Biol. Pharm. Bull.*, **28**, 994–997 (2005) (\*マルキンバイオ, \*\*富山大・薬)
  - 21) Hepatic metabolism of methyl anthranilate and methyl *N*-methylantranilate as food flavoring agents in relation to allergenicity in the guinea pig, Satoshi Yamaori, Hisayo Yokozuka, Aya Sasama, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*, Kazuhito Watanabe, *J. Health Sci.*, **51**, 667–675 (2005) (\*九州保福大・薬)
  - 22) Neurotrophic effects of genipin on Neuro2a cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, *J. Health Sci.*, **51**, 687–692 (2005)
  - 23) Fundamental role of nitric oxide in neuritogenesis of PC12h cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Tetsuro Mohri, *Br. J. Pharmacol.*, **146**, 662–669 (2005)
  - 24) Catalytic action of triarylstibanes: oxidation of benzoin into benzyls using triarylstibanes under an aerobic condition, Shuji Yasuike, Yoshihito Kishi, Shin-ichiro Kawara, Jyoji Kurita, *Chem. Pharm. Bull.*, **53**, 425–427 (2005)
  - 25) Synthesis of JOSIPHOS-type ligands via a diastereoselective three-component reaction and their application in asymmetric rhodium-catalyzed hydroborations, Shuji Yasuike, Christiane C. Kofink\*, Ralf J. Klotzling\*, Nina Gommermann\*, Katja Tappe\*, Andrei Gavryushin\*, Paul Knochel\*, *Tetrahedron: Asymmetry*, **16**, 3385–3393 (2005) (\*ミュンヘン大)
  - 26) Identification and determination of cannabinoids in both commercially available and cannabis oils stored long term, Mamoru Yotoryama\*, Eiji Ishiharajima\*, Yoko Kato\*, Akiko Nagato\*, Setsuko Sekita\*\*, Kazuhito Watanabe, Ikuo Yamamoto\*\*\*, *J. Health Sci.*, **51**, 483–487 (2005) (\*栃木県警・科警研, \*\*医薬品食品衛生研, \*\*\*九州保福大・薬)
  - 27) Neuritogenesis of herbal geniposide-related compounds in PC12h cells, Kenzo Chiba, Matsumi Yamazaki, Masafumi Kikuchi\*, Koichi Machida\*, Masao Kikuchi\*, *J. Health Sci.*, **52**, 743–747 (2006) (\*東北薬科大)
  - 28) Identification and functions of chondroitin sulfate in the milieu of neural stem cells, Michiru Ida\*, Takuya Shuo, Kanako Hirano\*, Yoshihito Tokita\*,

- Keiko Nakanishi\*, FumikoK Matsui\*, Sachiko Aono\*, Hiroshi Fujita\*\*, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, Atuhiko Oohira\*, *J. Biol. Chem.*, **281**, 5982–5991 (2006) (\*愛知県コロニー研, \*\*生化学工業)
- 29) The vascular endothelial growth factor VEGF165 induces perlecan synthesis via VEGF receptor-2 in cultured human brain microvascular endothelial cells, Toshiyuki Kaji, Chika Yamamoto, Mami Oh-i, Yasuyuki Fujiwara, Yasuo Yamazaki\*, Takashi Morita\*, Anna H Plaas\*\*, Thomas N. Wight\*\*\*, *Biochim. Biophys. Acta*, **1760**, 1465–1474 (2006) (\*明治薬大・薬, \*\*南フロリダ大・医, \*\*\*ホープハート研)
- 30) Hypervalent organoantimony compounds 12-ethynyl-tetrahydrodibenz[c,f][1,5]azastibocenes: Highly efficient new transmetallating agent for organic halides, Naoki Kakusawa, Yoshinori Tobiyasu, Shuji Yasuie, Kentaro Yamaguchi\*, Hiroko Seki\*\*, Jyoji Kurita, *J. Organomet. Chem.*, **691**, 2953–2968 (2006) (\*徳島文理大香川・薬, \*\*千葉大・分セ)
- 31) Comparison of the effects of percutaneous and intraduodenal administration of oxybutynin on bladder contraction and salivation in rabbits, Hitoshi Kontani, Tetsukazu Hamamoto\*, Sunao Takeuchi\*, Yukari Nomura, Hiroyuki Sawanishi, Haruo Saito\*, *Int. J. Urology*, **13**, 977–984 (2006) (\*リードケミカル・研)
- 32) Characterization of an immortalized hepatic stellate cell line established from metallothionein-null mice, Nobuhiko Miura\*, Yoshitaka Kanayama\*\*, Wakako Nagai\*\*, Tatsuya Hasegawa\*\*\*, Yoshiyuki Seko\*\*\*, Toshiyuki Kaji, Akira Naganuma\*\*, *J. Toxicol. Sci.*, **31**, 391–398 (2006) (\*産医研, \*\*東北大院・薬, \*\*\*山梨環境研)
- 33) Neuroprotective and neurotrophic effects of Korean Gardenia jasminoides Ellis in PC12h cells, Kum Ju Park\*, Hyo-Cheol Ha\*, Hyun-Su Kim\*\*, Kenzo Chiba, Ik-Hyun Yeo\*, Sang-Yun Lee\*, *Food Sci. Biotechnol.*, **15**, 735–738 (2006) (\*ブルムウオン機能研, \*\*建國大)
- 34) Effects of 1-benzylxanthines on cyclic AMP phosphodiesterase 4 isoenzyme, Hirokazu Suzuki, Hiroyuki Sawanishi, Masaaki Nomura, Tsutomu Shimada\*, Kenichi Miyamoto\*, *Biol. Pharm. Bull.*, **29**, 131–134 (2006) (\*金沢大・病)
- 35) A stereocontrolled formal asymmetric synthesis of Pseudodistomin C, Kenichi Tanaka, Takuya Maesoba, Hiroyuki Sawanishi, *Heterocycles*, **68**, 183–192 (2006)
- 36) 8-Hydroxycannabinol, a new metabolite of cannabinol formed by human hepatic microsomes, Kazuhito Watanabe, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*, *Forensic Toxicol.*, **24**, 80–82 (2006) (\*九州保福大・薬)



- 37) Colominic acid inhibits the proliferation of cultured bovine aortic endothelial cells and injuries their monolayers: cell density-dependent effects prevented by sulfation, Chika Yamamoto, Yuki Morita, Shinya Yamaguchi\*, Toshimitu Hayashi\*\*, Toshiyuki Kaji, *Life Sci.*, **78**, 844–850 (2006) (\*マルキンバイオ, \*\*富山大院・薬)
- 38) Involvement of human blood arylesterases and liver microsomal carboxylesterases in nafamostat hydrolysis, Satoshi Yamaori, Nobuhiro Fujiyama, Mika Kushihara, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*, Tomomichi Sone\*\*, Masakazu Isobe\*\*, Tohru Ohshima\*\*\*, Kenji Matsumura\*\*\*\*, Minoru Oda\*\*\*\*, Kazuhito Watanabe, *Drug Metab. Pharmacokinet.*, **21**, 147–155 (2006) (\*九州保福大・薬, \*\*摂南大・薬, \*\*\*金沢大・医, \*\*\*\*鳥居薬品)
- 39) Expression of functional nitric oxide synthase for neuritogenesis in PC12h cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, *J. Health Sci.*, **52**, 769–773 (2006)
- 40) Differences in neuritogenic response to nitric oxide in PC12 and PC12h cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Teturo Mohri, *Neurosci. Lett.*, **393**, 222–225 (2006)
- 41) Synthesis of enantiomerically pure Sb-chirogenic organoantimony compounds and their crystal structures, Shuji Yasuike, Yoshihito Kishi, Shin-ichiro Kawara, Kentaro Yamaguchi\*, Jyoji Kurita, *J. Organomet. Chem.*, **691**, 2213–2220 (2006) (\*徳島文理大香川・薬)
- 42) A novel transmetallation of triarylstibanes into arylboronate: boro-induced ipso-deantimonation and its theoretical calculation, Shuji Yasuike, Kazuhide Nakata\*, Weiwei Qin, Toshiyuki Kaji, Jyoji Kurita, *Chem. Lett.*, **35**, 1402–1403 (2006) (\*法大・自然セ)
- 43) Directed ortho insertion (DoI): a new approach to functionalized aryl and heteroaryl zinc reagents, Nadege Boudet\*, Shohei Sase\*, Pradipta Sinha\*, Ching-Yuan Liu, Arkady Krasovskiy\*, Paul Knochel\*, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 12358–12359 (2007) (\*ミュンヘン大・化学)
- 44) Methylmercury retards the repair of wounded monolayer of human brain microvascular endothelial cells by inhibiting their proliferation without nonspecific cell damage, Takashi Hirooka, Yasuyuki Fujiwara\*, Chika Yamamoto, Akira Yasutake\*\*, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **53**, 450–456 (2007) (\*愛知学院大・薬, \*\*国立水俣研)
- 45) Structure-activity relationship of flavonoids for inhibition of epidermal growth factor-induced transformation of JB6 Cl 41 cells, Daisuke Ichimatsu\*, Masaaki Nomura, Seiji Nakamura\*, Shuzo Moritani\*\*, Koichi Yakogawa\*, Shinjiro

- Kobayashi, Tatsuo Nishioka, Kenichi Miyamoto\*, *Mol Carcinog.*, **46**, 436–445 (2007) (\*金沢大・医, \*\*福井大・看護)
- 46) Protein-protein interactions between rat hepatic cytochromes P450 (P450s) and UDP-glucuronosyltransferases (UGTs): Evidence for the Functionally active UGT in P450-UGT complex, Yuji Ishii\*, Megumi Iwanaga\*, Yoshio Nishimura\*, Shuso Takeda, Shinichi Ikushiro\*\*, Kiyoshi Nagata\*\*\*, Yasushi Yamazoe\*\*\*\*, Peter I. Mackenzie\*\*\*\*\*, Hideyuki Yamada\*, *Drug Metab. Pharmacokinet.*, **22**, 367–376 (2007) (\*九州大・薬, \*\*富山大工, \*\*\*東北薬科大, \*\*\*\*東北大院・薬, \*\*\*\*\*フリンダース大・医)
- 47) Dysfunction of Nrf2 decreases KBrO<sub>3</sub>-induced oxidative DNA damage in Ogg1-null mice, Paweł Jalozyński\*, Soichiro Murata\*\*, Yasuhiro Shinkai, Satoru Takahashi\*\*, Yoshito Kumagai\*\*, Susumu Nishimura\*, Masayuki Yamamoto\*\*\*, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **364**, 966–971 (2007) (\*筑波大TARAセ, \*\*筑波大院・人間総合科学, \*\*\*東北大院・医)
- 48) Overproduction of N<sup>ε</sup>-(carboxymethyl) lysine-induced neovascularization in cultured chroidal explant of aged rat, Shinjiro Kobayashi, Masaaki Nomura, Tatsuo Nishioka, Minoru Kikuchi, Akina Ishihara, Ryoji Nagai\*, Nobuyoshi Hagino\*\*, *Biol Pharm Bull.*, **30**, 133–138 (2007) (\*熊本大・医, \*\*チューレン大・医)
- 49) Synthesis of functionalized o-, m-, and p-terphenyl derivatives by consecutive cross-coupling reactions of triazene-substituted arylboronic esters, Ching-Yuan Liu, Andrey Gavryushin\*, Paul Knochel\*, *Chemistry-An Asian Journal*, **2**, 1020–1030 (2007) (\*ミュンヘン大・化学)
- 50) Preparation of polyfunctional aryl azides from aryl triazenes. A new synthesis of ellipticine, 9-methoxyellipticine, isoellipticine, and 7-carbethoxyisoellipticine, Ching-Yuan Liu, Paul Knochel\*, *J. Org. Chem.*, **72**, 7106–7115 (2007) (\*ミュンヘン大・化学)
- 51) Preparation of polyfunctional aryl triazenes via a direct insertion reaction of Zn in the presence of LiCl, Ching-Yuan Liu, Paul Knochel\*, *Synlett*, 2081–2085 (2007) (\*ミュンヘン大・化学)
- 52) Protective effects of Toki-shakuyaku-san Tsumura Japan-23 (TJ-23) on  $\beta$ -amyloid protein ( $\beta$ 40)-induced apoptosis in pheochromocytoma-12 (PC12) cells, Yuan Ying Liu, Takanobu Kojima, *J. Health Sci.*, **53**, 196–201 (2007)
- 53) Combined effects of fangchinoline from stephania tetrandra radix and formononetin and calycosin from *astragalus membranaceus* radix on hyperglycemia and hypoinsulinemia in streptozotocin-diabetic mice, Wenjie Ma, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi-Nishioka, Shinjiro Kobayashi, *Biol. Pharm.*

*Bull.*, 30, 2079–2083 (2007)

- 54) Inhibition of tetrandrine on epidermal growth factor-induced cell transformation and its signal-transduction, Masaaki Nomura, Rina Yamazaki, Makiko Takaya, Minoru Kikuchi, Kiyoshi Akiyama\*, Noriko Akiyama\*, Tatsuo Takahashi-Nishioka, Syuzo Moritani\*\*, Shinjiro Kobayashi, *Anticancer Res.*, 27, 3187–3194 (2007) (\*栗津神経サナトリウム, \*\*福井大・看護)
- 55) The neuroprotective and neurotrophic effects of tremella fuciformis in PC12h cells, Kum Ju Park\*, Sang-Yun Lee\*, Hyun-Su Kim\*\*, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Hyo-Cheol Ha\*, *Mycobiology*, 35, 11–15 (2007) (\*ブルムウオン機能研, \*\*建國大)
- 56) Arsenic and other metal contamination of groundwater in the mekong river delta, vietnam, Yasuhiro Shinkai, Duong Van Truc\*, Daigo Sumi\*\*, Doan Canh\*, Yoshito Kumagai\*\*, *J. Health Sci.*, 53, 344–346 (2007) (\*Institute of Tropical Biology Vietnam, \*\*筑波大院・人間総合科学)
- 57) Ectodomain shedding of neuroglycan C, a brain-specific chondroitin sulfate proteoglycan, by TIMP-2- and TIMP-3-sensitive proteolysis, Takuya Shuo, Sachiko Aono\*, Keiko Nakanishi\*, Yoshihito Tokita\*, Yoshiyuki Kuroda\*, Michiru Ida\*, Fumiko Matsui\*, Hiroyo Maruyama, Toshiyuki Kaji, Atsuhiko Oohira\*, *J. Neurochem.*, 102, 1561–1568 (2007) (\*愛知県コロニー研)
- 58) Activation of the Nrf2 pathway, but decreased gamma-glutamylcysteine synthetase heavy subunit chain levels and caspase-3-dependent apoptosis during exposure of primary mouse hepatocytes to diphenylarsinic acid, Daigo Sumi\*, Aiko Manji\*, Yasuhiro Shinkai, Takashi Toyama\*, Yoshito Kumagai\*, *Toxicol. Appl. Pharmacol.*, 223, 218–224 (2007) (\*筑波大院・人間総合科学)
- 59) Characteristic properties of genipin as an activator in neuronal nitric oxide synthase., Hirokazu Suzuki, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Hiroyuki Sawanishi, *J. Health Sci.*, 53, 730–733 (2007)
- 60) Suppression of fetal testicular cytochrome *P450 17* by maternal exposure to 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin: A mechanism involving an initial effect on gonadotropin synthesis in the pituitary, Junko Taketoh\*, Junpei Mutoh\*\*, Tomoki Takeda\*, Tadashi Ogishima\*\*\*, Shuso Takeda, Yuji Ishii\*, Takumi Ishida\*, Hideyuki Yamada\*, *Life Sci.*, 80, 1259–1267 (2007) (\*九州大・薬, \*\*九州保福大・薬, \*\*\*九州大院・理)
- 61) Purpurin expression in the zebrafish retina during early development and after optic nerve lesion in adults, Masayuki Tanaka, Daisuke Murayama, Mikiko Nagashima, Tomomi Higashi, Kazuhiro Mawatari, Toru Matsukawa\*, Satoru Kato\*, *Brain Res.*, 1153, 34–42 (2007) (\*金沢大院・医)

- 62) Cytoprotective role of Nrf2/Keap1 system in methylmercury toxicity, Takashi Toyama\*, Daigo Sumi\*, Yasuhiro Shinkai, Akira Yasutake\*\*, Keiko Taguchi\*\*\*, Kit I. Tong\*\*\*, Masayuki Yamamoto\*\*, Yoshito Kumagai\*, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **363**, 645–650 (2007) (\*筑波大院・人間総合科学, \*\*国立水俣研, \*\*\*東北大院・医)
- 63) Coenzyme Q<sub>10</sub> prevents high glucose-induced oxidative stress in human umbilical vein endothelial cells, Hiroshi Tsuneki\*, Naoto Sekizaki\*, Takashi Suzuki\*, Shinjiro Kobayashi, Tsutomu Wada\*, Tadashi Okamoto\*\*, Ikuko Kimura\*, Toshiyasu Sasaoka\*, *Eur. J. Pharmacol.*, **566**, 1–10 (2007) (\*富山大・薬, \*\*神戸学院大・薬)
- 64) Conversion of cannabidiol to  $\Delta^9$ -tetrahydrocannabinol and related cannabinoids in artificial gastric juice, and their pharmacological effects in mice, Kazuhito Watanabe, Yuka Itokawa, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Toshiyuki Kaji, Noriyuki Usami\*\*, Ikuo Yamamoto\*\*, *Foren. Toxicol.*, **15**, 16–21 (2007) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
- 65) Cytochrome P450 enzymes involved in the metabolism of tetrahydrocannabinols and cannabinol by human hepatic microsomes, Kazuhito Watanabe, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*\*, *Life Sci.*, **80**, 1415–1419 (2007) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
- 66) Butyrylcholinesterase and erythrocyte sulfhydryl-dependent enzyme hydrolyze gabexate in human blood, Satoshi Yamaori, Mika Kushihara, Nibuhiro Fujiyama, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*\*, Kenji Matsumura\*\*\*, Minoru Oda\*\*\*, Kazuhito Watanabe, *J. Health Sci.*, **53**, 60–66 (2007) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬, \*\*\*鳥居薬品)
- 67) Nafamostat is hydrolyzed by human liver cytosolic long-chain acyl-CoA hydrolase, Satoshi Yamaori, Eriko Ukena, Nobuyuki Fujiyama, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*\*, Tohru Ohshima\*\*\*, Kenji Matsumura\*\*\*\*, Minoru Oda\*\*\*\*, Kazuhito Watanabe, *Xenobiotica*, **37**, 260–270 (2007) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬, \*\*\*金沢大・医, \*\*\*\*鳥居薬品)
- 68) Suzuki-type cross-coupling reaction of pentavalent triarylantimony diacetates with arylboronic acids without a base, Shuji Yasuike, Weiwei Qin, Yoshiyuki Sugawara, Jyoji Kurita, *Tetrahedron Lett.*, **48**, 721–724 (2007)
- 69) Homocysteine inhibits proteoglycan synthesis in cultured bovine aortic smooth muscle cells, Yasuyuki Fujiwara\*, Chihiro Mikami, Michinori Nagai, Chika Yamamoto, Takashi Hirooka, Masahiko Satoh\*, Toshiyuki Kaji, *J. Health Sci.*, **54**, 56–65 (2008) (\*愛知学院大・薬)

- 70) Arsenite but not arsenate inhibits general proteoglycan synthesis in cultured arterial smooth muscle cells, Yasuyuki Fujiwara\*, Chika Yamamoto, Takashi Hirooka, Naoko Terada, Masahiko Satoh\*, Toshiyuki Kaji, *J. Toxicol. Sci.*, **33**, 487–492 (2008) (\*愛知学院大・薬)
- 71) Gilman-type versus lipshutz-type reagents: competition in lithiocuprate chemistry, Joanna Haywood\*, James V. Morey\*, Andrew E. H. Wheatley\*, Ching-Yuan Liu, Shuji Yasuike, Jyoji Kurita, Masanobu Uchiyama\*\*, Paul R. Raithby, *Organometallics*, in press (\*University of Cambridge, \*\*理研, \*\*\* University of Bath)
- 72) Proteasome affects the expression of aryl hydrocarbon receptor-regulated proteins, Takumi Ishida\*, Masayo Kawakami\*, Hiroko Baba\*, Masanori Yahata\*, Junpei Mutoh\*, Shuso Takeda, Hideaki Fujita\*, Yoshitaka Tanaka\*, Yuji Ishii\*, Hideyuki Yamada\*, *Environ. Toxicol. Pharmacol.*, **26**, 348–354 (2008) (\*九州大院・薬)
- 73) N<sup>ε</sup>-(Carboxymethyl)lysine-induced choroidal angiogenic potential facilitates retinal neovascularization in advanced-diabetic rat in vitro, Shinjiro Kobayashi, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi, Miho Suzuki, Ryoji Nagai\*, Nobuyoshi Hagino\*\*, *Open Pharmacol.J.*, **2**, 79–86 (2008) (\*熊本大・医, \*\*チュレーン大・医)
- 74) Properties and expression of a multidrug efflux pump AcrAB-KocC from *klebsiella pneumoniae*, Dai-wei Li, Motoyasu Ohnishi, Takanori Kishino, Taira Matsuo, Wakano Ogawa, Teruo Kuroda, Tomofusa Tsuchiya, *Biol. Pharm. Bull.*, **31**, 577–582 (2008)
- 75) Effect of periodic replacement of the heteroatom on the spectroscopic properties of indole and benzofuran derivatives, Atsuya Muranaka\*, Shuji Yasuike, Ching-Yuan Liu, Jyoji Kurita, Naoki Kakusawa, Takashi Tsuchiya, Masako Okuda\*\*, Nagao Kobayashi\*\*, Yotaro Matsumoto\*, Kengo Yoshida\*, Daisuke Hashizume\*, Masanobu Uchiyama\*, *J. Phys. Chem. A*, in press (\*理研, \*\*東北大・理)
- 76) Inhibitory mechanisms of flavonoids on insulin-stimulated glucose uptake in MC3T3-G2/PA6 adipose cells, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi, Naoto Nagata\*, Kikue Tsutsumi\*, Shinjiro Kobayashi, Tetsuo Akiba\*, Koichi Yokogawa\*, Shuzo Moritani\*\*, Ken-ichi Miyamoto, *Biol. Pharm. Bull.*, **31**, 1403–1409 (2008) (\*金沢大・病院薬, \*\*福井大・看護)
- 77) Inotiosol, a lanostane triterpenoid, from *inototus obliquus* inhibits cell proliferation through caspase-3 dependent apoptosis, Masaaki Nomura, Tatsuo Takahashi, Aimi Uesugi, Reiko Tanaka\*, Shinjiro Kobayashi, *Anticancer Res.*, **28**,

- 2691–2696 (2008) (\*大阪薬大)
- 78) Palladium-catalyzed carbonylative cross-coupling reaction of triarylantimony dicarboxylates with arylboronic acids: Synthesis of biaryl ketones, Weiwei Qin, Shuji Yasuike, Naoki Kakusawa, Jyoji Kurita, *J. Organomet. Chem.*, **693**, 2949–2953 (2008)
  - 79) Triarylantimony dicarboxylates as pseudo-halides for palladium-catalyzed cross-coupling reaction with arylboronic acids and triarylbismuthanes without any base, Weiwei Qin, Shuji Yasuike, Naoki Kakusawa, Yoshiyuki Sugawara, Masatoshi Kawahata\*, Kentaro Yamaguchi\*, Jyoji Kurita, *J. Organomet. Chem.*, **693**, 109–116 (2008) (\*徳島文理大香川・薬)
  - 80) Bone-targeting of quinolones conjugated with an acidic oligopeptide, Tatsuo Takahashi, Koichi Yokogawa\*, Naoki Sakura, Masaaki Nomura, Shinjiro Kobayashi, Ken-ichi Miyamoto\*, *Pharm. Res.*, **25**, 2881–2888 (2008) (\*金沢大・病院薬)
  - 81) Cannabidiolic acid as a selective cyclooxygenase-2 inhibitory component in cannabis, Shuso Takeda, Koichiro Misawa, Ikuo Yamamoto\*, Kazuhito Watanabe, *Drug Metab. Dispos.*, **36**, 1917–1921 (2008) (\*九州保福大・薬)
  - 82)  $\Delta^9$ -Tetrahydrocannabinol enhances MCF-7 cell proliferation via cannabinoid receptor-independent signaling, Shuso Takeda, Satoshi Yamaori, Erina Motoya, Tamihide Matsunaga\*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*\*, Kazuhito Watanabe, *Toxicology*, **245**, 141–146 (2008) (\*信州大医・病, \*\*九州保福大・薬)
  - 83) Effects of oral administration of stephania tetrandra S. moore on neovascularization of retinal and choroidal capillaries of diabetes in rats, Taiki Tsutsumi\*, Nobuyoshi Hagino\*, Xian-chun Liang\*\*, Sai-shan Guo\*\*, Shinjiro Kobayashi, *Phytother. Res.*, **22**, 591–596 (2008) (\*チュレーン大・医, \*\*中国協和医大)
  - 84) Generation of reactive oxygen species during mouse hepatic microsomal metabolism of cannabidiol and cannabidiol hydroxyquinone, Noriyuki Usami\*, Ikuo Yamamoto\*, Kazuhito Watanabe, *Life Sci.*, **83**, 717–724 (2008) (\*九州保福大・薬)
  - 85) Adiponectin as an inducer of decorin synthesis in cultured vascular smooth muscle cells, Chika Yamamoto, Akiko Urano, Yasuyuki Fujiwara\*, Toshiyuki Kaji, *Life Sci.*, **83**, 447–452 (2008) (\*愛知学院大・薬)
  - 86) Genipin exhibits neurotrophic effects through a common signaling pathway in nitric oxide synthase-expressing cells, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, *Eur. J. Pharmacol.*, **581**, 255–261 (2008)

- 87) Neuro2a cell death induced by 6-hydroxydopamine is attenuated by genipin, Matsumi Yamazaki, Kenzo Chiba, Keiko Satoh, *J. Health Sci.*, in press

### 3 著書・翻訳

- 1) 衛生薬学, 鍛冶利幸 他著, 南江堂出版社 (2005.4)
- 2) 中国医学一医・薬学で漢方を学ぶ人のために, 劉園英 他著, 南江堂出版社 (2005.11)
- 3) 健康と環境 日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズ5, 渡辺和人 他著, 東京化学同人 (2006.3)
- 4) 薬毒物試験法と注解2006—分析・毒性・対処法—, 日本薬学会編, 渡辺和人 他著, 東京化学同人 (2006.3)
- 5) アルコール, タバコ, 覚せい剤, 麻薬 薬物依存Q & A, 前田均 他編, 渡辺和人 他著, ミネルヴァ書房 (2006.6)
- 6) Pharmaceutical Note 第2版, 百瀬弥寿徳編, 古林伸二郎 他著, 医学評論社 (2008.2)

### 4 その他刊行物

- 1) 北陸大学学術フロンティアと衛生薬学研究, 鍛冶利幸, 薬事日報 (2005.8.26)
- 2) 劉先生の健康術「肺の乾燥を防ぐ」, 劉園英, 元氣通信 (2005.8)
- 3) 慢性的頭痛は臓腑に問題, 劉園英, アクタス, 186, 106-107 (2005)
- 4) 痛風に冷飲冷食は厳禁, 劉園英, アクタス, 187, 106-107 (2005)
- 5) 誤った風邪治療は危険, 劉園英, アクタス, 188, 106-107 (2005)
- 6) 骨粗鬆症こそ漢方薬の出番, 劉園英, アクタス, 189, 114-115 (2005)
- 7) お腹の調子は心の鏡, 劉園英, アクタス, 190, 114-115 (2005)
- 8) 痔の治療は血行改善から, 劉園英, アクタス, 191, 114-115 (2005)
- 9) 喘息と冷えの深い関係, 劉園英, アクタス, 192, 128-129 (2005)
- 10) 漢方で変える不妊体質, 劉園英, アクタス, 193, 148-149 (2005)
- 11) 体質で違うダイエット法, 劉園英, アクタス, 194, 128-129 (2005)
- 12) じんましん起こす「風」, 劉園英, アクタス, 195, 128-129 (2005)
- 13) 美肌には黒い食べ物, 劉園英, アクタス, 196, 148-149 (2005)
- 14) 頻尿の改善は「腎」がカギ, 劉園英, アクタス, 197, 128-129 (2005)
- 15) 生薬解説—麻黄, 劉園英, 伝統医学, 27, 34 (2005)
- 16) 生薬解説—蒼朮, 劉園英, 伝統医学, 28, 34 (2005)
- 17) 生薬解説—白朮, 劉園英, 伝統医学, 29, 34 (2005)
- 18) 生薬解説—大棗, 劉園英, 伝統医学, 30, 34 (2005)
- 19) 劉先生の健康術「体質改善が花粉症に効く」, 劉園英, 元氣通信 (2006.4.15)
- 20) チャングムが教えてくれた東洋医学の「人間味」, 劉園英, えくせんれんと, 10, 4-7 (2006)



- 21) 人にやさしい暮らしを考える（環境と健康に配慮した住まい），劉園英，北國新聞（2006.10.1）
- 22) 丈夫がいいね—中国流「茶の飲み方」，劉園英，北國新聞（2006.10.24）
- 23) 未病の知恵袋—薬膳，劉園英，産経新聞（2006.10.30）
- 24) 老化防止へ東西の医学融合，劉園英，北國新聞（2006.12.3）
- 25) 西洋医学と東洋医学を融合，劉園英，北國新聞（2006.12.17）
- 26) 老化と腰痛の深い関係，劉園英，アクタス，198，128－129（2006）
- 27) とれない疲れの根本原因，劉園英，アクタス，199，128－129（2006）
- 28) 五臓と五味の深い関係，劉園英，アクタス，200，138－139（2006）
- 29) 健康な血で抜け毛と闘う，劉園英，アクタス，201，164－165（2006）
- 30) 体を潤し，口内炎を予防，劉園英，アクタス，202，164－165（2006）
- 31) 気を巡らせ，うつ病改善，劉園英，アクタス，203，152－153（2006）
- 32) 関節痛を招く三つの「邪」，劉園英，アクタス，204，142－143（2006）
- 33) 生理痛は血の滞りが元凶，劉園英，アクタス，205，158－159（2006）
- 34) 潤い不足で糖尿病に，劉園英，アクタス，206，150－151（2006）
- 35) 陰陽バランス乱れ高血圧に，劉園英，アクタス，207，144－145（2006）
- 36) 動脈硬化は「未病」の一つ，劉園英，アクタス，208，152－153（2006）
- 37) 体質に合った食べ物を，劉園英，アクタス，209，142－143（2006）
- 38) 生薬解説—麦門冬，劉園英，伝統医学，31，38（2006）
- 39) 生薬解説—茵ちん蒿，劉園英，伝統医学，32，38（2006）
- 40) 生薬解説—牡丹皮，劉園英，伝統医学，33，38（2006）
- 41) 生薬解説—菊花，劉園英，伝統医学，34，38（2006）
- 42) 丈夫がいいね—高血圧（上）～五臓いたわり悪化防ぐ，劉園英，北國新聞（2007.6.3）
- 43) 丈夫がいいね—高血圧（下）～食後の菊花茶で血圧安定，劉園英，北國新聞（2007.6.4）
- 44) 温泉の効能と相乗効果，劉園英，北國新聞（2007.6.3）
- 45) 代替医療で病気予防を，劉園英，北國新聞（2007.11.11）
- 46) 二味の配合—柴胡と黄芩，劉園英，伝統医学，35，44（2007）
- 47) 二味の配合—麻黄と石膏，劉園英，伝統医学，36，56（2007）
- 48) 二味の配合—芍薬と甘草，劉園英，伝統医学，37，56（2007）
- 49) 二味の配合—竜骨と牡蛎，劉園英，伝統医学，38，57（2007）
- 50) 食卓に薬膳の知恵を，劉園英，アクタス，210，150－151（2007）
- 51) 精力減退「腎」に聞け，劉園英，アクタス，211，144－145（2007）
- 52) 体癒やす365個のツボ，劉園英，アクタス，212，132－133（2007）
- 53) 気功で高める健康の質，劉園英，アクタス，213，138－139（2007）
- 54) 老化を遅らせる6つの法，劉園英，アクタス，214，144－145（2007）
- 55) 間食はダメじゃない!？，劉園英，アクタス，215，160－161（2007）
- 56) 6つの体質に効く食材，劉園英，アクタス，216，144－145（2007）

- 57) 毎日のお茶で健康に, 劉園英, アクトス, 217, 160-161 (2007)
- 58) 悪玉ストレスを善玉に, 劉園英, アクトス, 218, 142-143 (2007)
- 59) 4つの「毒」から身を守る, 劉園英, アクトス, 219, 148-149 (2007)
- 60) 瘀血と病気の怖い関係, 劉園英, アクトス, 220, 162-163 (2007)
- 61) メタボリックシンドロームと未病, 劉園英, アクトス, 221, 146-147 (2007)
- 62) 違法ドラッグの新たな法規制 指定薬物制度, 渡辺和人, ファルマシア, 43, 1126-1127 (2007)
- 63) インターロイキン18は肥満抑制に関与する?, 廣岡孝志, ファルマシア, 43, 61-62 (2007)
- 64) 系統立てた漢方教育を目指して, 劉園英, 漢方医薬学雑誌, 16, 26-27 (2008)
- 65) 高血圧一五臓いたわり悪化防ぐー, 劉園英, 丈夫がいいねー漢方の力, 16-17 (2008)
- 66) 高血圧一食後の菊花茶で血圧安定ー, 劉園英, 丈夫がいいねー漢方の力, 18-19 (2008)
- 67) 自分の体を守り病気になるいうちに治す, 劉園英, MIL, 1, 27 (2008)
- 68) 生命力の源「腎」を健康に保つ, 劉園英, 元気通信 (2008.7.12)
- 69) 老化を防ぐ, 劉園英, 元気通信 (2008.8.15)
- 70) 二味の配合ー竜骨と牡蛎, 劉園英, 伝統医学, 38, 57 (2008)
- 71) 二味の配合ー柴胡と升麻, 劉園英, 伝統医学, 39, 55 (2008)
- 72) 二味の配合ー知母と石膏, 劉園英, 伝統医学, 40, 53 (2008)
- 73) 二味の配合ー黄連と黄芩, 劉園英, 伝統医学, 41, 57 (2008)
- 74) 肌を潤す「血」と「気」, 劉園英, アクトス, 222, 158-159 (2008)
- 75) 自分の性格知っていますか?, 劉園英, アクトス, 223, 146-147 (2008)
- 76) 血の巡り良くして片頭痛を解消, 劉園英, アクトス, 224, 124-125 (2008)
- 77) ドライアイの原因は肝と腎にあり, 劉園英, アクトス, 225, 142-143 (2008)
- 78) のどの異物感は気の乱れ, 劉園英, アクトス, 226, 140-141 (2008)
- 79) 血の滞りが起こす子宮内膜症, 劉園英, アクトス, 227, 150-151 (2008)
- 80) 認知症は腎虚と深い関係, 劉園英, アクトス, 228, 154-155 (2008)
- 81) 「血虚」改善して貧血治療, 劉園英, アクトス, 229, 132-133 (2008)
- 82) 口臭の原因は「胃熱」にあり, 劉園英, アクトス, 230, 138-139 (2008)
- 83) 「肺熱」控えてニキビ改善, 劉園英, アクトス, 231, 148-149 (2008)
- 84) 難聴は肝・腎・脾の乱れ, 劉園英, アクトス, 232, 158-159 (2008)
- 85) 動悸は血液循環に問題あり, 劉園英, アクトス, 233, 68-69 (2008)

客員研究員業績

[総説]

- 1) Chemo- and regioselective deprotonation reactions using ate complexes, Robert

- E. Mulvey, Florence Mongin, Masanobu Uchiyama\*, Yoshinori Kondo, *Angew. Chem., Int. Ed.*, **46**, 3802–3824 (2007) (\*理研)
- 2) Zinc, Masanobu Uchiyama\*, Tomoko Uchiyama, *Chemistry&Education*, **55**, 570–573 (2007) (\*理研)
- 3) 水俣病の病理—メチル水銀毒性—, 衛藤光明, 安武章\*, 澤田倍美, 徳永英博, 興梠征典, *臨床と病理・別冊***25**, 776–779 (2007) (\*国立水俣研)
- 4) Design and function of heteroleptic Zinc ate complexes, Masanobu Uchiyama\*, *J. Syn. Org. Chem.*, **67**, 4–16 (2008) (\*理研)
- 5) Silylmetalation of alkenes, Shinji Nakamura, Mitsuhiro Yonehara\*, Masanobu Uchiyama\*, *Chem. Eur. J.*, **4**, 1068–1078 (2008) (\*理研)

[原著]

- 1) *Anti*-[2.2](1,4) Phthalocyaninophane: spectroscopic evidence for transannular interaction in the excited states, Yoshiaki Asano, Atsuya Muranaka\*, Akira Fukasawa, Terutaka Hatano\*, Masanobu Uchiyama\*, Nagao Kobayashi, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 4516–4517 (2007) (\*理研)
- 2) Reverse photochromic behavior of iron-magnesium complex, Minoru Kobayashi, Akito Takashima, Tomohiko Ishii, Hiroshi Naka, Masanobu Uchiyama\*, Kentaro Yamaguchi, *Inorg. Chem.*, **46**, 1039–1041 (2007) (\*理研)
- 3) On the kinetic and thermodynamic reactivity of lithium di(alkyl) amidozincate bases in directed Ortho metalation, Yoshinori Kondo, James V. Morey, Jacqueline C. Morgan, Hiroshi Naka, Daisuke Nobuto\*, Paul R. Raithby, Masanobu Uchiyama\*, Andrew E. H. Wheatley, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 12734–12738 (2007) (\*理研)
- 4) Theoretical studies on ortho oxidation of phenols with dioxygen mediated by dicopper complex: hints for a catalyst with the phenolase activity of tyrosinase, Hiroshi Naka, Yoshinori Kondo, Shinya Usui\*, Yuichi Hashimoto, Masanobu Uchiyama\*, *Adv. Synth. Catal.*, **349**, 595–600 (2007) (\*理研)
- 5) An aluminum ate base: its design, structure, function and reaction mechanism, Hiroshi Naka, Masanobu Uchiyama\*, Yotaro Matsumoto, Andrew E. H. Wheatley, Mary McPartlin, James V. Morey, Yoshinori Kondo, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 1921–1930 (2007) (\*理研)
- 6) Regio- and chemoselective silylmetalation of functionalized alkenes, Shinji Nakamura, Masanobu Uchiyama\*, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 28–29 (2007) (\*理研)
- 7) Ligand-activated lithium-mediated zincation of *N*-phenylpyrrole, Anne Seggio, Marie-Isabelle Lannou, Floris Chevallier, Daisuke Nobuto\*, Masanobu Uchiyama\*, Stehane Golhen, Thierry Roisnel, Florence Mongin, *Chem. Eur. J.*,

- 13, 9982–9989 (2007) (\*理研)
- 8) Origin of chemoselectivity of TMP-Zincate base: differences between TMP-Zincate and alkyllithium reagents, Masanobu Uchiyama\*, Yotaro Matsumoto, Shinya Usui\*, Yuichi Hashimoto, Keiji Morokuma, *Angew. Chem., Int. Ed.*, **46**, 926–929 (2007) (\*理研)
- 9) Reaction pathway of conjugate addition of lithium organozincates to *s*-trans enones, Masanobu Uchiyama\*, Shinji Nakamura, Eiichi Nakamura, Keiji Morokuma, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 13360–13361 (2007) (\*理研)
- 10) Direct *ortho* cupration: a new route to regioselectively functionalized aromatics, Shinya Usui\*, Yuichi Hashimoto, James V. Morey, Andrew E. H. Wheatley, Masanobu Uchiyama\*, *J. Am. Chem. Soc.*, **129**, 15102–15103 (2007) (\*理研)
- 11) Comparative study for activities of reactive oxygen species production/defense system in mitochondria of rat brain and liver, and their susceptibility to methylmercury toxicity, Nobuko Mori, Akira Yasutake\*, Kimiko Hirayama, *Arch. Toxicol.*, **81**, 769–776 (2008) (\*国立水俣研)
- 12) 新潟水俣病関係30剖検例の病理学的・生化学的研究, 衛藤光明\*, 高橋均, 柿田明美, 徳永英博, 安武章\*, 中野篤浩, 澤田倍美, 金城芳秀, *Jpn J. Hyg.*, **62**, 70–88 (2007) (\*国立水俣研)
- 13) ‘Conformational’ solvatochromism: spatial discrimination of nonpolar solvents using a supramolecular box of a  $\pi$ -conjugated zinc bisporphyrin rotamer, Junko Aimi, Yuka Nagamine, Akihiko Tsuda, Atsuya Muranaka\*, Masanobu Uchiyama\*, Takuzo Aida, *Angew. Chem. Int. Ed.*, **47**, 5153–5156 (2008) (\*理研)
- 14) Application of the perimeter model to assignment of electronic absorption spectra of gold(III) hexaphyrins with  $[4n+2]$  and  $[4n]$   $\pi$ -electron systems, Atsuya Muranaka\*, Osamu Matsushita, Kengo Yoshida\*, Shigeki Mori, Masaaki Suzuki, Taniyuki Furuyama\*, Masanobu Uchiyama\*, Atsuhiko Osuka, Nagao Kobayashi, *Chem. Eur. J.*, **14**, in press (\*理研)
- 15) Development of highly chemoselective bulky zincate complex,  $t\text{Bu}_4\text{ZnLi}_2$ : design, structure, and practical applications in small-/macro-molecular synthesis, Taniyuki Furuyama\*, Mitsuhiro Yonehara\*, Sho Arimoto, Minoru Kobayashi, Yotaro Matsumoto, Masanobu Uchiyama\*, *Chem. Eur. J.*, **14**, 10348–10356 (2008) (\*理研)
- 16) Suppressing the anionic fries rearrangement of aryl dialkylcarbamates; the isolation of a crystalline *ortho*-deprotonated carbamate, Felipe Garcia, Mary McPartlin, James V. Morey, Daisuke Nobuto\*, Yoshinori Kondo, Hiroshi Naka\*,\*, Masanobu Uchiyama\*, Andrew E. H. Wheatley, *Eur. J. Org. Chem.*, 644–647 (2008) (\*理研, \*\*名大・物国セ)

- 17) Organozinc reagents in DMSO solvent: remarkable promotion of  $S_N2'$  reaction for allene synthesis, Koji Kobayashi, Hiroshi Naka\*, Andrew E. H. Wheatley, Yoshinori Kondo, *Org. Lett.*, **10**, 3375–3377 (2008) (\*名大・物国セ)
- 18) Activation of organozinc reagents with *t*-Bu-P4 base for transition metal-free catalytic  $S_N2'$  reaction, Koji Kobayashi, Masahiro Ueno, Hiroshi Naka\*, Yoshinori Kondo, *Chem. Commun.*, **32**, 3780–3782 (2008) (\*名大・物国セ)
- 19) Deprotonative metalation of five-membered aromatic heterocycles using mixed lithium-zinc species, Jean-Martial L'Helgoual'ch, Anne Seggio, Floris Chevallier, Mitsuhiro Yonehara\*, Erwann Jeanneau, Masanobu Uchiyama\*, Florence Mongin, *J. Org. Chem.*, **73**, 177–183 (2008) (\*理研)
- 20) Solid-phase synthesis of phthalocyanine and tetraazaporphyrin triangular prisms, Atsuya Muranaka\*, Kengo Yoshida\*, Yusuke Akagi, Hiroshi Naka\*, \*\*, Masanobu Uchiyama\*, Yoshinori Kondo, Nagao Kobayashi, *Tetrahedron Lett.*, **49**, 5084–5086 (2008) (\*理研, \*\*名大・物国セ)
- 21) Catalytic deprotonative functionalization of propargyl silyl ethers with imines, Hiroshi Naka\*, Daiki Koseki, Yoshinori Kondo, *Adv. Synth. Catal.*, **350**, 1901–1906 (2008) (\*名大・物国セ)
- 22) Chiral bisphosphazides as dual basic enantioselective catalysts, Hiroshi Naka\*, Nobuhiko Kanase, Masahiro Ueno, Yoshinori Kondo, *Chem. Eur. J.*, **14**, 5267–5274 (2008) (\*名大・物国セ)
- 23) A mixed alkyl-amido aluminate as a kinetically controlled base, Hiroshi Naka\*, \*\*, James V. Morey, Joanna Haywood, Dana J. Eisler, Mary McPartlin, Felipe Garcí'a, Hironaga Kudo, Yoshinori Kondo, Masanobu Uchiyama\*, \*\*, Andrew E. H. Wheatley, *J. Am. Chem. Soc.*, **130**, 16193–16200 (2008) (\*名大・物国セ, \*\*理研)
- 24) Electronic structures of azulene-fused porphyrins as seen by magnetic circular dichroism and TD-DFT calculations, Katsunori Nakai, Kei Kurotobi, Atsuhiko Osuka, Masanobu Uchiyama\*, Nagao Kobayashi, *J. Inorg. Biochem.*, **102**, 466–471 (2008) (\*理研)
- 25) A new interpretation of the reaction pathway of deprotonative with TMP-ate/TMEDA Complex[ $\text{TMEDA} \cdot \text{Na}(\mu\text{-}^t\text{Bu})(\mu\text{-TMP})\text{Zn}(^t\text{Bu})$ ], Daisuke Nobuto\*, Masanobu Uchiyama\*, *J. Org. Chem.*, **73**, 1117–1120 (2008) (\*理研)
- 26) Strain difference of cadmium accumulation by liver slices of inbred wistar-imamichi and fischer 344 rats, Hideaki Shimada, Akira Yasutake\*, Takaomi Hirashima, Yasutaka Takamure, Takeshi Kitano, Waalkes Michael P, Yorishige Imamura, *Toxicol in Vitro*, **22**, 338–343 (2008) (\*国立水俣研)
- 27) Generation and suppression of 3-/4-functionalized benzyne using zinc ate base

- (TMP-Zn-ate): new approaches to multi-substituted benzenes, Masanobu Uchiyama\*, Yuri Kobayashi, Taniyuki Furuyama\*, Shinji Nakamura, Yumiko Kajihara, Tomoko Miyoshi, Takao Sakamoto, Yoshinori Kondo, Keiji Morokuma, *J. Am. Chem. Soc.*, **130**, 472–480 (2008) (\*理研)
- 28) Deprotonative cadmation of functionalized aromatics, Jean-Martial L'Helgoual'ch, Ghenia Bentabed-Ababsa, Floris Chevallier, Mitsuhiro Yonehara\*, Masanobu Uchiyama\*, Ai'cha Derdourb, Florence Mongin, *Chem. Commun.*, 5375–5377 (2008) (\*理研)
- 29) Fluorescent probe for  $\text{Zn}^{2+}$  with light-harvesting pyrenyl groups: sensitization via intramolecular energy transfer, Hitoshi Shirase, Yukie Mori\*, Yutaka Fukuda, Masanobu Uchiyama\*, *Monat. Chem.*, in press (\*理研)
- 30) Emergence of delayed methylmercury toxicity after perinatal exposure in metallothionein-null and wild-type C57BL mice, Minoru Yoshida, Natsuki Shimizu, Megumi Suzuki, Chiho Watanabe, Masahiko Satoh, Kouki Mori, Akira Yasutake\*, *Env. Health Pers.*, **116**, 746–751 (2008) (\*国立水俣研)

## 5 学会発表

- 1) ニホンザル肝 Microsomal Alcohol Oxygenase のテストステロンによる活性化機構のGC/MSを用いた解析, 舟橋達也, 田中雄基, 山折大, 木村敏行, 松永民秀\*, 大森 栄\*, 景山節\*, 山本郁男\*\*, 渡辺和人, 第59回北陸質量分析談話会, 富山 (2005.5) (\*信州大医・病, \*\*九州保福大・薬)
- 2)  $\beta$ -Amyloid protein による神経細胞死における当帰芍薬散の制御作用, 劉園英, 小島崇伸, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山 (2005.5)
- 3) FGF-2による培養血管平滑筋細胞のビグリカンおよびデコリン合成のデルマタン硫酸糖鎖の二糖組成の変化を伴った誘導, 山本千夏, 岩崎恵里奈, 藤原泰之, 鍛冶利幸, 第37回日本結合組織学会学術大会, 富山 (2005.5)
- 4) Epidermal growth factorによって誘導される cell transformation と Akt 活性のcaffeineによる抑制, 野村政明, 古林伸二郎, 宮本謙一\*, 第107回日本薬理学会近畿部会, 金沢 (2005.6) (\*金沢大・病)
- 5) 東洋医学における緩和医療～漢方と疼痛緩和～ (特別講演), 劉園英, 第12回石川緩和医療研究会, 金沢 (2005.6)
- 6) トロンピンが血管平滑筋細胞のパールカン合成を誘導する, 山本千夏, 若田貴子, 藤原泰之, 鍛冶利幸, 第6回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 東京 (2005.7)
- 7) 血管内皮および平滑筋細胞の増殖に対するコロミン酸および硫酸化コロミン酸の作用, 山本千夏, 森田有紀, 山口信也\*, 林利光\*\*, 鍛冶利幸, 第25回日本糖質学会年会, 大津 (2005.7) (\*マルキンバイオ, \*\*富山大・薬)
- 8) 高血圧症と漢方～漢方の食養生 (特別講演), 劉園英, 第3回福岡統合医療研究会,

福岡 (2005.7)

- 9)  $\beta$ -amyloid proteinによる神経細胞死に対する当帰芍薬散の制御効果とその作用機序, 劉園英, 第22回和漢医薬学会大会, 東京 (2005.8)
- 10) 大麻主成分Cannabidiolから生成するTetrahydrocannabinol関連化合物の薬理効果, 渡辺和人, 糸川由佳, 山折大, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 日本法中毒学会第24年会, 福岡 (2005.8) (\*九州保福大・薬)
- 11) MDMAのラット肝ミクロソームによる代謝過程での一酸化炭素生成, 木村敏行, 山路友香, 山折大, 舟橋達也, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第24年会, 福岡 (2005.8) (\*九州保福大・薬)
- 12) Conversion of cannabidiol to hexahydrocannabinols and their pharmacological effects in mice, Kazuhito Watanabe, Yuka Itokawa, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (\*九州保福大・薬)
- 13) Metabolic formation of carbon monoxide from MDMA and MDA by rat liver microsomes, Toshiyuki Kimura, Yuka Yamaji, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi, Kazuhito Watanabe, Ikuo Yamamoto\*, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (\*九州保福大・薬)
- 14) Inhibition of steroidogenesis in adult rat testis by cannabinoids, Tatsuya Funahashi, Naoki Matsuzawa, Hideharu Ikeuchi, Satoshi Yamaori, Toshiyuki Kimura, Kazuhito Watanabe, Ikuo Yamamoto\*, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (\*九州保福大・薬)
- 15) Expression of cannabinoid CB1 receptor in mouse neuroblastoma C-1300N18 and NB2a cell lines, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi, Toshiyuki Kimura, Kazuhito Watanabe, Ikuo Yamamoto\*, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (\*九州保福大・薬)
- 16) Role of carboxylesterase in the metabolism of abuse drugs possessing ester groups, Ikuo Yamamoto\*, Masumi Imoto\*, Noriyuki Usami\*, Kazuhito Watanabe, The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 43rd International Meeting, Seoul, Korea (2005.8) (\*九州保福大・薬)
- 17) Biochemical pharmacology of marijuana, metabolism and toxicology, Department of Medical Pharmacology and Toxicology, Kazuhito Watanabe, College of Medicine, Texas A & M University System Health Science Center, College Station, Texas, U.S.A (2005.9)



- 18) Metabolic interactions of cannabinoids with steroid hormones, Department of Pharmacology and Toxicology, Kazuhito Watanabe, University of Mississippi Medical Center Jackson, Mississippi, U.S.A (2005.9)
- 19) Neurotrophic effects of genipin: Neuroprotective actions through nitric oxide synthase activation on oxidative stress in Neuro2a cells, 千葉賢三, 山崎眞津美, 佐藤敬子, 第48回日本神経化学学会大会, 福岡 (2005.9)
- 20) Neurotrophic effects of genipin: Neuroprotective actions on ER stress in Neuro2a cells, 山崎眞津美, 千葉賢三, 第48回日本神経化学学会大会, 福岡 (2005.9)
- 21) Pharmacological effects of anandamide and 2-arachidonoylglycerol in mice, and enhancement of their effects by phenylmethylsulfonyl fluoride, 渡辺和人, 木村敏行, 舟橋達也, 山折大, 山本郁男\*, 慶熙大学・北陸大学合同シンポジウム, 金沢 (2005.9) (\*九州保福大・薬)
- 22) Role of N(epsilon)-(carboxymethyl)lysine adduct for neovascularization of choroidal and retinal capillary in aged and diabetic rats, 古林伸二郎, 野村政明, 慶熙大学・北陸大学・合同シンポジウム, 金沢 (2005.9)
- 23) NO-mediated neuroprotective effect of genipin on ER stress-induced cytotoxicity in neuro2a cells, 山崎眞津美, 佐藤敬子, 千葉賢三, 第78回日本生化学大会, 神戸 (2005.10)
- 24) Neurotrophic effects of genipin on oxidative stress-induced cytotoxicity in Neuro2a cells, 吉川千秋, 山崎眞津美, 佐藤敬子, 千葉賢三, 第78回日本生化学大会, 神戸 (2005.10)
- 25) コロミン酸による血管内皮および平滑筋細胞の増殖阻害: 硫酸化による活性の制御, 山本千夏, 森田有紀, 山口信也\*, 林利光\*\*, 鍛冶利幸, フォーラム2005衛生薬学・環境トキシコロジー, 徳島 (2005.10) (\*マルキンバイオ, \*\*富山大・薬)
- 26) 亜ヒ酸ナトリウムによる血管内皮細胞プロテオグリカン合成の阻害, 藤原泰之, 中瀬裕介, 鍛冶利幸, フォーラム2005衛生薬学・環境トキシコロジー, 徳島 (2005.10)
- 27) 大麻主成分によるラット精巣StAR (Steroidogenic Acute Regulatory) タンパク質の発現阻害, 舟橋達也, 日永田麻美, 松澤直樹, 山折大, 木村敏行, 山本郁男\*, 山崎岳\*\*, 渡辺和人, フォーラム2005衛生薬学・環境トキシコロジー, 徳島 (2005.10) (\*九州保福大・薬, \*\*広島大)
- 28) 動脈硬化の進展メカニズムと防御に関する衛生薬学的研究 (日本薬学会環境・衛生部会賞受賞講演), 山本千夏, フォーラム2005衛生薬学・環境トキシコロジー, 徳島 (2005.10)
- 29) 第15族元素から成るトリアリール誘導体と三塩化ホウ素との反応, 安池修之, 根元あや子, 栗田城治, 平成17年度有機合成化学北陸セミナー, 福井 (2005.10)
- 30) 海洋天然物 Pseudodistomin A 及び B の合成研究, 田中憲一, 前唄拓哉, 澤西啓之, 第31回反応と合成の進歩シンポジウム, 神戸 (2005.11)

- 31) Ni触媒を利用したビスジメチルフェニルシリル亜鉛とアリールトリフレート類とのクロスカップリング反応, 安池修之, Aandrei Gavryushin\*, Paul Knochel\*, 第31回反応と合成の進歩シンポジウム, 神戸 (2005.11) (\*ミュンヘン大)
- 32) Neuro2a細胞のストレス障害に対するGenipinの保護効果: 作用機作に関する研究, 吉川千秋, 山崎眞津美, 佐藤敬子, 千葉賢三, 日本薬学会北陸支部第113回例会, 金沢 (2005.11)
- 33) トリアリールアンチモン類の化学反応性 (1): アリールボラン酸エステルへの金属交換反応, 安池修之, 根本あや子, 栗田城治, 日本薬学会北陸支部第113回例会, 金沢 (2005.11)
- 34) トリアリールアンチモン類の化学反応性 (2): マイクロ波を利用した水系での $\alpha$ -プロモケトン類の脱臭素化反応, 安池修之, 菅原芳之, 角澤直紀, 栗田城治, 日本薬学会北陸支部第113回例会, 金沢 (2005.11)
- 35) 脳神経の発達と脳特異的プロテオグリカン, 周尾卓也, 大平敦彦\*, 鍛冶利幸, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「メチル水銀の毒性研究は今」, 水俣 (2005.11) (\*愛知県コロニー研)
- 36) 硫酸化多糖による血管内皮および平滑筋細胞増殖の制御, 山本千夏, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「糖鎖関連化合物の生物活性」, 京都 (2005.11)
- 37) カフェインのシスプラチン抗腫瘍効果増強作用におけるp53の関与, 野村政明, 坂戸悠里\*, 古林伸二郎, 宮本謙一\*, 第26回日本臨床薬理学会年会, 別府 (2005.12) (\*金沢大・病)
- 38) 動脈硬化の進展メカニズムに関与する血管細胞機能の制御 (成果発表講演), 山本千夏, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢 (2006.3)
- 39) 動脈硬化に対する漢方薬の有用性～東洋医薬学に立脚した治療・予防戦略～ (成果発表講演), 劉園英, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢 (2006.3)
- 40) トリアリールアンチモン化合物からの金属交換反応を利用したアリールホウ酸エステル類の新規合成法, 安池修之, 根本あや子, 中田和秀, 鍛冶利幸, 栗田城治, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢 (2006.3)
- 41) Genipinの神経栄養因子様作用: ストレスにより誘導されるNeuro2a細胞障害に対する防護作用, 千葉賢三, 吉川千秋, 佐藤敬子, 山崎眞津美, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢 (2006.3)
- 42) 糖尿病態ラットの培養脈絡膜の血管新生異常におけるTNF $\alpha$ の関与とtetrandrineの抑制作用, 古林伸二郎, 菊池穂, 野村政明, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢 (2006.3)
- 43) ヘパラン硫酸糖鎖は血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞傷害性を増強する,

- 藤原泰之, 深谷允, 鍛冶利幸, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢 (2006.3)
- 44) カンナビノイドCB<sub>2</sub>受容体を介した $\Delta^8$ -テトラヒドロカンナビノールのマクロファージ細胞障害作用, 山折大, 石井浩介, 阿部賀奈子, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 平成17年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「動脈硬化」, 金沢 (2006.3) (\*九州保福大・薬)
- 45) 1-Benzylxanthine 誘導体のPDE4阻害活性, 鈴木宏一, 澤西啓之, 野村政明, 嶋田努\*, 宮本謙一\*, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*金沢大・病)
- 46) ホモシステインによる血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成の阻害, 藤原泰之, 三上千尋, 永井倫典, 鍛冶利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 47) ADAMTS-4によるNGC細胞外領域の切り出し機構の解析, 周尾卓也, 丸山浩代, 青野幸子\*, 中西圭子\*, 時田義人\*, 松井ふみ子\*, 黒田喜幸\*, 伊田みちる\*, 藤原泰之, 山本千夏, 大平敦彦\*, 鍛冶利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*愛知県コロニー研)
- 48) アディポネクチンによる培養ヒト冠動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成の調節, 浦野晶子, 山本千夏, 藤原泰之, 鍛冶利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 49) TNF- $\alpha$ による培養ウシ大動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成の調節, 佐藤友子, 山本千夏, 藤原泰之, 石原知絵, 鍛冶利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 50) ヘパラン硫酸糖鎖は血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞傷害性を増強する, 深谷允, 藤原泰之, 鍛冶利幸, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 51)  $\Delta^9$ -テトラヒドロカンナビノールのペントバルビタール睡眠増強作用メカニズム, 木村敏行, 高屋牧子, 舟橋達也, 山折大, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*九州保福大・薬)
- 52) カンナビノイドによるラット精巣間質細胞中のSteroidogenic Acute Regulatory (StAR) タンパク質の発現阻害及び細胞毒性, 舟橋達也, 日永田麻美, 山折大, 木村敏行, 山本郁男\*, 山崎岳\*\*, 渡辺和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*九州保福大・薬, \*\*広島大)
- 53) タンパク質分解酵素阻害薬ナファモスタットを加水分解するヒト血液エステラーゼ, 山折大, 串原美佳, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 松村謙二\*\*, 織田実\*\*, 渡辺和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*九州保福大・薬, \*\*鳥居薬品)
- 54)  $\Delta^9$ -テトラヒドロカンナビノールのマウスマクロファージJ774-1株に対する細胞毒性はカンナビノイドCB<sub>2</sub>受容体を介して誘発される, 石井浩介, 山折大, 阿倍賀奈子, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*九州保福大・薬)
- 55) タンパク質分解酵素阻害薬ガベキサートの加水分解におけるヒト血液アリールエステラーゼ及びブチリルコリンエステラーゼの関与, 串原美佳, 山折大, 舟橋達也,

- 木村敏行, 山本郁男\*, 松村謙二\*\*, 織田実\*\*, 渡辺和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*九州保福大・薬, \*\*鳥居薬品)
- 56) カンナビノイドによるラット精巣  $3\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase 阻害機構, 三澤宏一郎, 舟橋達也, 山折大, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*九州保福大・薬)
- 57) 上皮増殖因子によって誘導される cell transformation の tetrandrine による抑制機構, 野村政明, 山崎理名, 菊池穂, 古林伸二郎, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 58) 糖尿病態ラットの培養脈絡膜の血管新生異常における TNF $\alpha$  の関与と tetrandrine による抑制, 菊池穂, 野村政明, 古林伸二郎, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 59) イリドイド関連化合物の神経突起誘導作用, 千葉賢三, 山崎真津美, 菊池正史\*, 町田浩一\*, 菊池正雄\*\*, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3) (\*東北薬大, \*\*東北薬科大・薬)
- 60) 小胞体ストレス障害に対する genipin の防護作用, 山崎真津美, 吉川千秋, 千葉賢三, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 61) 有機アンチモン化合物とマイクロ波を利用した水系での  $\alpha$ -プロモケトン類の脱臭素化反応, 安池修之, 菅原芳之, 角澤直紀, 栗田城治, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 62) *o*-エチニルベンジルセレニド類の分子内環化反応, 指田春喜, 中村祥子, 鈴木宏一, 澤西啓之, 日本薬学会第126年会, 仙台 (2006.3)
- 63) Inhibition of EGF-induced cell transformation by flavonoids, 野村政明, 宮本謙一\*, 古林伸二郎, American Association for Cancer Research (AACR) 97th Annual Meeting, ワシントンDC (2006.4) (\*金沢大・医)
- 64) Novel functions of cytochrome P450 as microsomal oxygenase catalyzing from alcohol and/or aldehyde to corresponding ketones and carboxylic acid in relation to the metabolism of tetrahydrocannabinol, Ikuo Yamamoto\*, Kazuhito Watanabe, Shizuo Narimatsu\*\*, Tamihide Matsunaga\*\*\*, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi, Satoshi Yamaori, Noriyuki Usami\*, Hidetoshi Yoshimura\*\*\*\*, The 14th Takeda Science Foundation Symposium on Bioscience The 50th Anniversary of Oxygenases –Advances and Reflections Japan, Kyoto (2006.4) (\*九州保福大・薬, \*\*岡山大院・薬, \*\*\*信州大・病薬, \*\*\*\*九大・薬)
- 65) 腫瘍壊死因子- $\alpha$  による血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成の調節, 佐藤友子, 山本千夏, 藤原泰之, 鍛冶利幸, 第38回日本結合組織学会学術大会, 前橋 (2006.5)
- 66) Computer simulation of genipin-NO synthase interaction, 千葉賢三, 山崎真津美, 鈴木宏一, 澤西啓之, 第6回日本NO学会学術集会, 東京 (2006.5)
- 67) Primitive role of neuronal nitric oxide synthase in genipin-induced neurite

- outgrowth, 山崎眞津美, 千葉賢三, 第6回日本NO学会学術集会, 東京 (2006.5)
- 68) ヒト肝シトクロムP450によるカンナビジオールの代謝, 渡辺和人, 山折大, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 日本法中毒学会第25年会, 東京 (2006.6) (\*九州保福大・薬)
- 69) カンナビノイドのペントバルビタール睡眠増強作用におけるCB<sub>1</sub>受容体の関与- $\Delta^9$ -テトラヒドロカンナビノールとカンナビジオールの比較, 木村敏行, 高屋牧子, 山折大, 舟橋達也, 渡辺和人, 山本郁男\*, 日本法中毒学会 第25年会, 東京 (2006.6) (\*九州保福大・薬)
- 70) 大麻主成分テトラヒドロカンナビノールの神経細胞障害作用, 山折大, 舟橋達也, 木村敏行, 千葉賢三, 渡辺和人, 山本郁男\*, 日本法中毒学会第25年会, 東京 (2006.6) (\*九州保福大・薬)
- 71) カルボキシシルエステラーゼによる局所麻酔薬in vitro代謝の薬物速度論的解析, 井本真澄\*, 宇佐見則行\*, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第25年会, 東京 (2006.6) (\*九州保福大・薬)
- 72) 血液凝固促進性と動脈硬化進展を結ぶプロテオグリカンの合成調節, 鍛冶利幸, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング, 「薬学における動脈硬化研究の新展開」, 京都 (2006.6)
- 73) 動脈硬化に対する漢方薬の有用性の探究, 劉園英, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「薬学における動脈硬化研究の新展開」, 京都 (2006.6)
- 74) Regulation of proteoglycan synthesis by tumor necrosis factor-alpha in cultured vascular smooth muscle cells, Chika Yamamoto, Tomoko Sato, Yasuyuki Fujiwara, Toshiyuki Kaji, Satellite Symposium of IUBMB “Extracellular Glycomatrix in Health and Disease”, 淡路 (2006.6)
- 75)  $\beta$ -Amyloid proteinによる神経細胞死に対する当帰芍薬散の制御作用機序, 劉園英, 小島崇伸, 第57回東洋医学会学術総会, 大阪 (2006.6)
- 76) CB<sub>1</sub> Receptor mediates the potentiation of pentobarbital-induced sleep by delta-9-tetrahydrocannabinol, 木村敏行, 高屋牧子, 山折大, 舟橋達也, 渡辺和人, 山本郁男\*, ICRS 2006 (16th Annual Symposium on the Cannabinoids), ハンガリー, Tihany (2006.6) (\*九州保福大・薬)
- 77) 血管組織に存在するプロテオグリカン—その特性および合成調節—, 鍛冶利幸, 第7回Pharmaco-Hematologyシンポジウム (特別シンポジウム「血管・リンパ管内皮細胞の機能とその分子メカニズム」), 東京 (2006.6)
- 78) 培養ヒト冠動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成のアディポネクチンによる調節, 浦野晶子, 山本千夏, 藤原泰之, 鍛冶利幸, 第7回Pharmaco-Hematologyシンポジウム, 東京 (2006.6)
- 79) 培養ウシ大動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成に対するTNF- $\alpha$ の調節, 佐藤友子, 山本千夏, 藤原泰之, 石原知絵, 鍛冶利幸, 第7回Pharmaco-Hematologyシ



- ンポジウム, 東京 (2006.6)
- 80) 血管内皮細胞に対する重金属の毒性評価とその分子メカニズム, 藤原泰之, 第33回日本トキシコロジー学会学術年会, 名古屋 (2006.6)
  - 81) Suzuki-type cross-coupling reaction of pentavalent triphenylantimony dicarboxylate with arylboronic acids, 安池修之, 秦薇薇, 菅原芳之, 栗田城治, 日本薬学会北陸支部 第114回例会, 金沢 (2006.7)
  - 82) セレノール類および関連化合物の分子内三重結合への環化反応の理論的考察 (1), 鈴木宏一, 中村祥子, 澤西啓之, 指田春喜, 日本薬学会北陸支部第114回例会, 金沢 (2006.7)
  - 83) テトラヒドロカンナビノールのマウス神経芽細胞腫C-1300N18細胞に対する毒性発現機構—カンナビノイドCB<sub>1</sub>受容体の関与, 山折大, 舟橋達也, 木村敏行, 千葉賢三, 渡辺和人, 山本郁男\*, 「内・外環境と生物応答」シンポジウム, 福岡 (2006.7) (\*九州保福大・薬)
  - 84) インスリンが誘導する脂肪細胞のグルコース取り込みに対するフラボノイドの効果, 西岡達雄, 野村政明, 古林伸二郎, 宮本謙一\*, 第23回和漢医薬学会大会, 岐阜 (2006.8) (\*金沢大・病)
  - 85) Heparan sulfate chain intensifies the cytotoxicity of cadmium to vascular endothelial cells, Yasuyuki Fujiwara, Makoto Mitani, Tomoko Konishi, Naoko Terada, Toshiyuki Kaji, 25th Annual Meeting on Metal Toxicology; CHALK TALK 2006 -Korea/Japan Joint Meeting on Biometals-, Jeju-do, Korea (2006.8)
  - 86) Cytotoxicity of methylmercury in cultured human brain microvascular endothelial cells and pericytes, Takashi Hirooka, Michitaka Tanaka, Yuka Minami, Yasuyuki Fujiwara, Chika Yamamoto, Toshiyuki Kaji, 25th Annual Meeting on Metal Toxicology; CHALK TALK 2006 -Korea/Japan Joint Meeting on Biometals-, Jeju-do, Korea (2006.8)
  - 87) 血管細胞においてシグナル分子として機能する外来性糖鎖, 山本千夏, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「糖鎖関連分子による細胞機能の制御とその応用」, 大津 (2006.9)
  - 88) プロテオグリカン分子の合成調節による血管細胞機能の調節, 鍛冶利幸, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「糖鎖関連分子による細胞機能の制御とその応用」, 大津 (2006.9)
  - 89) Necessity but not sufficiency of neuronal NOS for genipin-induced neuritogenesis in PC12 cells, 千葉賢三, 山崎眞津美, 居原秀\*, 第28回日本生物学的精神医学会, 第36回日本神経精神薬理学会, 第49回日本神経化学大会合同年会, 名古屋 (2006.9) (\*大阪府立大・理)
  - 90) Genipin induces anti-apoptotic modulation through NO-cGMP pathway in 6-

- hydroxydopamine-treated cells, 山崎眞津美, 千葉賢三, 第28回日本生物学的精神医学会, 第36回日本神経精神薬理学会, 第49回日本神経化学大会合同年会, 名古屋 (2006.9)
- 91) The cloning of zebrafish purpurin gene and its early expression during optic nerve regeneration, 田中聖之, 松川通\*, 加藤聖\*, 第28回日本生物学的精神医学会, 第36回日本神経精神薬理学会, 第49回日本神経化学大会合同年会, 名古屋 (2006.9) (\*金沢大院・医)
  - 92) The protective effect of Toki-Shakuyaku-San (TJ23) on  $\beta$ -amyloid protein-induced apoptosis in PC12 cells, Yuan Ying Liu, The 3<sup>rd</sup> International Congress of Traditional Medicine, Toronto, Canada (2006.9)
  - 93) 大麻主成分テトラヒドロカンナビノールのマウスマクロファージ様細胞に対するCB<sub>2</sub>受容体依存的な毒性発現へのMAPKの関与, 石井浩介, 山折大, 阿倍賀奈子, 舟橋達也, 木村敏行, 千葉賢三, 渡辺和人, 山本郁男\*, フォーラム2006衛生薬学・環境トキシコロジー, 東京 (2006.10) (\*九州保福大・薬)
  - 94) 大麻吸煙抽出物の変異原性, 舟橋達也, 松澤直樹, 山折大, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, フォーラム2006衛生薬学・環境トキシコロジー, 東京 (2006.10) (\*九州保福大・薬)
  - 95) アディポネクチンによる冠動脈平滑筋細胞プロテオグリカン合成の制御, 浦野晶子, 山本千夏, 藤原泰之, 鍛冶利幸, フォーラム2006 衛生薬学・環境トキシコロジー, 東京 (2006.10)
  - 96) 大動脈平滑筋細胞においてTNF- $\alpha$ はバーシカン合成を調節する, 佐藤友子, 山本千夏, 藤原泰之, 鍛冶利幸, フォーラム2006衛生薬学・環境トキシコロジー, 東京 (2006.10)
  - 97) Synthesis of asymmetric biaryls by use of boronic acids and pentavalent organoantimony compound as pseudo-halide, 安池修之, 秦薇薇, 菅原芳之, 栗田城治, 平成18年度有機合成北陸セミナー, 富山 (2006.10)
  - 98) ヒトCYP1A1, CYP1A2及びCYP1B1の酵素活性に対する主要カンナビノイドの阻害機構の解明, 串原美佳, 山折大, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会北陸支部第115回例会, 富山 (2006.11) (\*九州保福大・薬)
  - 99) *o*-エチニルベンジルセレンド類の位置選択的親電子環化反応, 鈴木宏一, 中村祥子, 澤西啓之, 指田春喜, 第32回複素環化学討論会, 長崎 (2006.11)
  - 100) コンピュータシミュレーションによる genipin 関連化合物とNO合成酵素のテトラヒドロビオプテリン結合領域との相互作用解析, 千葉賢三, 山崎眞津美, 鈴木宏一, 澤西啓之, 第25回メディシナルケミストリーシンポジウム, 名古屋 (2006.11)
  - 101) 主要カンナビノイドによるヒトCYP1ファミリーの酵素活性の阻害, 串原美佳, 山折大, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 第21回日本薬物動態学会年会, 東京 (2006.11) (\*九州保福大・薬)



- 102) ブチリルコリンエステラーゼ及び赤血球アリールエステラーゼはヒト血液中のガベキサート加分解に関与する, 山折大, 串原美佳, 藤山信弘, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 松村謙二\*\*, 織田実\*\*, 渡辺和人, 第21回日本薬物動態学会年会, 東京 (2006.11) (\*九州保福大・薬, \*\*鳥居薬品)
- 103) グレープフルーツおよび日向夏のヒトおよびげっ歯類肝ミクロソームにおけるエステラーゼ阻害作用, 井本真澄\*, 宇佐見則行\*, 山本郁男\*, 細井信造, 佐久嶋明世, 渡辺和人, 第21回日本薬物動態学会年会, 東京 (2006.11) (\*九州保福大・薬)
- 104) Inhibitory effect of tetrandrine, a constituent of *Stephania Tetrandra* S. Moore, on advanced glucation endproduct-induced neovascularization of cultured choroidal explants in streptozotocin-diabetic rat, Shinjiro Kobayashi, Masaaki Nomura, Minoru Kikuchi, Tatsuo Nishioka, International Symposium on Integrated Pharmacy by University Specialization Supporting Program, Kyung Hee University, Soul, Korea (2006.12)
- 105) アンチモン(V)化合物を擬ハロゲン化物として利用したアリールハウ酸類との Base-free クロスカップリング反応, 安池修之, 秦薇薇, 菅原芳之, 栗田城治, 第32回反応と合成の進歩シンポジウム, 広島 (2006.12)
- 106) 1,5-アザスチボシンを用いた芳香族ニトロ化合物の触媒的還元反応, 角澤直紀, 菅原芳之, 安池修之, 栗田城治, 第32回反応と合成の進歩シンポジウム, 広島 (2006.12)
- 107) 有機アンチモン類からハウ酸エステル類への金属交換反応, 安池修之, 中田和秀\*, 秦薇薇, 鍛冶利幸, 栗田城治, 第33回有機典型元素化学討論会, 福岡 (2006.12) (\*法大・自然セ)
- 108) 現代病と漢方 (特別講演), 劉園英, 石川県病院薬剤師会平成18年度第2回学術研修会, 金沢 (2007.2)
- 109) カドミウムの血管毒性発現の分子機構, 藤原泰之, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「食品汚染金属の毒性とその防御の分子メカニズム」, 仙台 (2007.2)
- 110) カドミウムの血管毒性を増強する因子としてのヘパラン硫酸糖鎖, 鍛冶利幸, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3)
- 111) カンナビノイドによる代謝的相互作用及び細胞毒性発現の分子機構, 渡辺和人, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3)
- 112) 5 価有機アンチモン化合物とアリールハウ酸類とのクロスカップリング反応, 秦薇薇, 安池修之, 菅原芳之, 川幡正俊\*, 山口健太郎\*, 栗田城治, 平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」, 金沢 (2007.3) (\*徳島文理大香川・薬)
- 113) Genipin の神経栄養因子様作用: NO 合成酵素の重要性, 千葉賢三, 山崎眞津美,

- 鈴木宏一，田中聖之，澤西啓之，平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」，金沢（2007.3）
- 114) インスリンが誘導する脂肪細胞のグルコース取り込みに対するフラボノイドの効果，野村政明，西岡達雄，古林伸二郎，平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」，金沢（2007.3）
- 115) 高血圧症に対する漢方薬の有用性～東洋医学に立脚した治療・予防戦略～，劉園英，平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」，金沢（2007.3）
- 116) 血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成に対するアディポサイトカイン（TNF- $\alpha$ およびアディポネクチン）の作用，山本千夏，佐藤友子，浦野晶子，藤原泰之，鍛冶利幸，平成18年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「化学物質の毒性」，金沢（2007.3）
- 117) 1,9-Dialkylならびに1,3,9-Trialkylxanthine誘導体の合成，鈴木宏一，澤西啓之，日本薬学会第127年会，富山（2007.3）
- 118) プラバスタチンによる血管内皮細胞プロテオグリカン合成の制御，山本千夏，宮内靖世，藤原泰之，鍛冶利幸，日本薬学会第127年会，富山（2007.3）
- 119) ビスマスは亜ヒ酸による血管内皮細胞プロテオグリカン合成の阻害作用を軽減する，藤原泰之，稲垣孝行，山本千夏，鍛冶利幸，日本薬学会第127年会，富山（2007.3）
- 120) 脳特異的プロテオグリカン，ニューログリカンCの細胞外領域切り出し機構の解析，周尾卓也，丸山浩代，青野幸子\*，中西圭子\*，時田義人\*，藤原泰之，山本千夏，大平敦彦\*，鍛冶利幸，日本薬学会第127年会，富山（2007.3）（\*愛知県コロニー研）
- 121) ヒト脳微小血管内皮細胞に対するメチル水銀の傷害性と増殖阻害，廣岡孝志，南有香，藤原泰之，山本千夏，鍛冶利幸，日本薬学会第127年会，富山（2007.3）
- 122) 動脈硬化進展の鍵分子プロテオグリカン—その特性および合成調節—，浦野晶子，山本千夏，藤原泰之，鍛冶利幸，日本薬学会第127年会（院生シンポジウム「次世代の動脈硬化研究を担う若者たちの集い～領域を超えた交流による新たな展開～」），富山（2007.3）
- 123) 血管平滑筋細胞におけるプロテオグリカン合成の調節，佐藤友子，山本千夏，藤原泰之，鍛冶利幸，日本薬学会第127年会（院生シンポジウム「糖鎖関連分子による細胞機能の制御とその応用」），富山（2007.3）
- 124) トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調節，寺田奈緒子，山本千夏，藤原泰之，鍛冶利幸，日本薬学会第127年会，富山（2007.3）
- 125) 血管内皮細胞のプロテオグリカン合成を誘導する有機アンチモン化合物の探索，小西智子，藤原泰之，山本千夏，安池修之，角澤直紀，秦薇薇，栗田城治，鍛冶利幸，日本薬学会第127年会，富山（2007.3）
- 126) 大麻粗抽出物投与によるラット副腎Steroidogenic Acute Regulatory (StAR)

- Protein 発現量の変動, 三澤宏一郎, 舟橋達也, 山折大, 木村敏行, 山本郁男\*, 山崎岳\*\*, 渡辺和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*九州保福大・薬, \*\*広島大)
- 127) カンナビノイドCBD及びCBNのマクロファージに対する細胞毒性発現へのCB<sub>1</sub>及びCB<sub>2</sub>受容体の関与, 石井浩介, 山折大, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*九州保福大・薬)
  - 128) カンナビノイドによるCYP2C9活性阻害に及ぼす遺伝子多型の影響, 串原美佳, 山折大, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*九州保福大・薬)
  - 129) マウスカンナビノイドCB<sub>1</sub>及びCB<sub>2</sub>受容体の発現組織分布と発現量の比較, 山折大, 岡田光, 舟橋達也, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*九州保福大・薬)
  - 130) PDE4阻害活性を標的としたimidazo[2,1-i]purine化合物の脂肪分解作用, 野村政明, 鈴木宏一, 澤西啓之, 森谷修三\*, 菊池穂, 高屋牧子, Ma Wenjie, 宮本謙一\*\*, 西岡達雄, 古林伸二郎, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*福井県大・看, \*\*金沢大・病)
  - 131) マウス骨髓細胞初代培養系におけるtetrandrineの破骨細胞分化抑制作用, 西岡達雄, 橘麻未, 野村政明, 古林伸二郎, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
  - 132) 粉防己成分Fangchinolineによるストレプトゾトシン糖尿病マウスの血糖降下作用における黄耆成分の複合効果, Ma Wenjie, 野村政明, 西岡達雄, 古林伸二郎, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
  - 133) 23-Hydroxyursolic acidの細胞増殖抑制機構の検討, 高屋牧子, 野村政明, 西岡達雄, Lee Kyung-Tae\*, 古林伸二郎, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*慶熙大・薬)
  - 134) ゲニピンの神経型NO合成酵素活性化作用: コンピュータシミュレーションによる解析, 千葉賢三, 山崎真津美, 鈴木宏一, 澤西啓之, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
  - 135) セコイリドイド類の神経突起誘導作用, 山崎真津美, 千葉賢三, 菊地正史\*, 菊地正雄\*\*, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*東北大・病院薬, \*\*東北薬科大・薬)
  - 136) 有機アンチモン化合物の機能解明1: アリールホウ酸類とのクロスカップリング反応, 秦薇薇, 安池修之, 菅原芳之, 川幡正俊\*, 山口健太郎\*, 栗田城治, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*徳島文理大香川・薬)
  - 137) 有機アンチモン化合物の機能解明2: エステル結合を持つ超原子価化合物の合成とその構造解析, 安池修之, 王軒, 川幡正俊\*, 山口健太郎\*, 栗田城治, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3) (\*徳島文理大香川・薬)
  - 138) 有機アンチモン化合物の機能解明3: ホウ酸エステル類への金属交換反応, 安池修之, 中田和秀\*, 秦薇薇, 鍛冶利幸, 栗田城治, 日本薬学会第127年会, 富山

- (2007.3) (\*法大・自然セ)
- 139) 有機アンチモン化合物の機能解明 4 : フェロセン骨格から成る光学活性有機Sb化合物の合成, 安池修之, 萩原淳一, 栗田城治, 日本薬学会第127年会, 富山 (2007.3)
  - 140) 脳特異的プロテオグリカン, ニューログリカンCの細胞外領域切り出し機構の解析, 周尾卓也, 丸山浩代, 青野幸子\*, 中西圭子\*, 藤原泰之\*\*, 山本千夏, 大平敦彦\*, 鍛冶利幸, 第39回結合組織学会学術大会・第54回マトリックス研究会大会合同学術集会, 東京 (2007.5) (\*愛知県コロニー研, \*\*愛知学院大・薬)
  - 141) 鉛による血管内皮細胞パルカン合成の阻害, 藤原泰之\*, 山本千夏, 鍛冶利幸, 第39回結合組織学会学術大会・第54回マトリックス研究会大会合同学術集会, 東京 (2007.5) (\*愛知学院大・薬)
  - 142) 高血圧症に対する漢方薬の有用性～東洋医薬学に立脚した治療・予防戦略～, 劉園英, 第8回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 金沢 (2007.6)
  - 143) アディポネクチンによる血管平滑筋細胞デコリン合成の誘導, 山本千夏, 浦野晶子, 藤原泰之\*, 鍛冶利幸, 第8回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 金沢 (2007.6) (\*愛知学院大・薬)
  - 144) TNF- $\alpha$ による血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成の調節, 山本千夏, 佐藤友子, 藤原泰之\*, 鍛冶利幸, 第8回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 金沢 (2007.6) (\*愛知学院大・薬)
  - 145) 血管内皮細胞に対して選択的に細胞毒性を発現する有機ビスマス化合物, 藤原泰之\*, 深谷允, 山本千夏, 安池修之, 栗田城治, 鍛冶利幸, 第8回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 金沢 (2007.6) (\*愛知学院大・薬)
  - 146) ホモシステインによる血管平滑細胞プロテオグリカン合成の阻害, 藤原泰之\*, 三上千尋, 永井倫典, 山本千夏, 廣岡孝志, 鍛冶利幸, 第8回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 金沢 (2007.6) (\*愛知学院大・薬)
  - 147) ヒト脳微小血管内皮細胞の維持に対するメチル水銀の毒性, 廣岡孝志, 藤原泰之\*, 山本千夏, 安武章\*\*, 鍛冶利幸, 第8回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 金沢 (2007.6) (\*愛知学院大・薬, \*\*国立水俣研)
  - 148) 血管内皮細胞のヘパラン硫酸プロテオグリカンの合成を促進する有機アンチモン化合物, 小西智子, 藤原泰之\*, 山本千夏, 安池修之, 角澤直紀, 秦薇薇, 栗田城治, 鍛冶利幸, 第8回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 金沢 (2007.6) (\*愛知学院大・薬)
  - 149) トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調節, 寺田奈緒子, 山本千夏, 藤原泰之\*, 鍛冶利幸, 第8回Pharmaco-Hematology シンポジウム, 金沢 (2007.6) (\*愛知学院大・薬)
  - 150) 血管内皮細胞のプロテオグリカン合成を誘導する環状有機アンチモン化合物, 藤原泰之\*, 北陸大学学術フロンティアサテライトミーティング「有機金属化合物の合

- 成と生物活性」, 長浜 (2007.6) (\*愛知学院大・薬)
- 151) 高原子価有機アンチモン化合物の特性を利用したクロスカップリング反応, 栗田城治, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング「有機金属化合物の合成と生物活性」, 長浜 (2007.6)
  - 152) 難治性皮膚炎治療に対する温清飲と十味敗毒湯の効果, 劉園英, 竹村修\*, 第58回日本東洋医学会学術総会, 広島 (2007.6) (\*映寿会みらい病院)
  - 153) 大麻主成分テトラヒドロカンナビノール, カンナビジオール, カンナビノールはヒトCYP1ファミリーの酵素活性を分子種選択的に阻害する, 串原美佳, 山折大, 舟橋達也\*, 木村敏行, 山本郁男\*\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
  - 154) 大麻幻覚成分テトラヒドロカンナビノールのマクロファージに対する毒性発現のメカニズム—カンナビノイドCB<sub>2</sub>受容体の関与, 石井浩介, 山折大, 舟橋達也\*, 木村敏行, 千葉賢三, 山本郁男\*\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
  - 155) 大麻粗抽出物投与によるラット副腎ステロイド生合成への影響, 三澤宏一郎, 舟橋達也\*, 山折大, 木村敏行, 山本郁男\*\*, 山崎岳\*\*\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬, \*\*\*広島大)
  - 156) リアルタイムPCR法を用いたマウスカンナビノイドCB<sub>1</sub>及びCB<sub>2</sub>受容体mRNAの定量法の開発, 山折大, 岡田光, 舟橋達也\*, 木村敏行, 山本郁男\*\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
  - 157)  $\Delta^9$ -テトラヒドロカンナビノールのフルニトラゼパム睡眠増強メカニズム, 木村敏行, 舟橋達也\*, 山折大, 宇佐見則行\*\*, 山本郁男\*\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第26年会, 延岡 (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
  - 158) Potentiation of benzodiazepine-induced sleep by delta-9-tetrahydrocannabinol, Toshiyuki Kimura, Tatsuya Funahashi\*, Satoshi Yamaori, Noriyuki Usami\*\*, Ikuo Yamamoto\*\*, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
  - 159) Cytotoxic effect of tetrahydrocannabinol on mouse neuroblastoma cells, Satoshi Yamaori, Hikaru Okada, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Kenzo Chiba, Ikuo Yamamoto\*\*, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
  - 160) Mechanism of tetrahydrocannabinol-induced cytotoxicity in mouse J774-1 macrophages: involvement of CB<sub>2</sub> receptor and p38 MARK, Hirosuke Ishii, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Kenzo Chiba, Ikuo Yamamoto\*\*, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the



- Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
- 161) Cytochrome P450 isoform-selective inhibition of major cannabinoids, delta-9-tetrahydrocannabinol, cannabidiol and cannabinol, Mika Kushihara, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*\*, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
  - 162) Inhibition mechanism of rat testis 3 $\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase/ $\Delta^5$ - $\Delta^4$  isomerase activity by cannabinoids, Koichiro Misawa, Tatsuya Funahashi\*, Satoshi Yamaori, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*\*, Kazuhito Watanabe, 17th Annual Symposium on the Cannabinoids (ICRS, International Cannabinoid Research Society), Saint-Saveur, Canada (2007.6) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
  - 163) 重金属と血管病変, 鍛冶利幸, 第34回日本トキシコロジー学会学術年会シンポジウム「環境汚染物質と生活習慣病」, 東京 (2007.6)
  - 164) シトクロム P450 3A4(CYP3A4)とUDP-グルクロン酸転移酵素 2B7の相互作用に関するCYP3A4の領域とその役割, 石井祐次\*, 竹田修三, Arief Nurrochmad\*, Peter I. Mackenzie\*\*, 永田清\*\*\*, 山添康\*\*\*\*, 小栗一太\*\*\*\*\*, 山田英之\*, 第34回日本トキシコロジー学会学術年会, 東京 (2007.6) (\*九大院・薬, \*\*フリンダース大・医, \*\*\*東北薬大, \*\*\*\*東北大院・薬, \*\*\*\*\*九州保福大・薬)
  - 165) 重金属の血管毒性 (特別講演), 鍛冶利幸, 摂南大学大学院セミナー, 大阪 (2007.7)
  - 166) Triarylantimony diacetates as pseudo-halides in base-free cross-coupling reaction with organic boron reagents, 秦薇薇, 安池修之, 菅原芳之, 川幡正俊\*, 山口健太郎\*, 栗田城治, 日本薬学会北陸支部第116回例会, 金沢 (2007.7) (\*徳島文理大香川・薬)
  - 167) 光学活性 1-(Diphenylphosphano)-2-[di(p-tolyl)stibano]ferroceneの合成, 萩原淳一, 川幡正俊\*, 山口健太郎\*, 栗田城治, 日本薬学会北陸支部第116回例会, 金沢 (2007.7) (\*徳島文理大香川・薬)
  - 168) 銅触媒を用いないトリフェニルアンチモンジアセテートの菌頭型カップリング反応, 安池修之, 王軒, 秦薇薇, 栗田城治, 日本薬学会北陸支部第116回例会, 金沢 (2007.7)
  - 169) 動脈硬化に対する漢方薬の有用性の探求 (教育講演), 劉園英, 平成19年度日本東洋医学会北陸支部夏季講演会, 福井 (2007.7)
  - 170) Structure-activity relationship of flavonoids for inhibition of insulin-stimulated glucose uptake in mouse MC3T3-G2/PA6 adipocytes, Masaaki Nomura, Ken-

- ichi Miyamoto, Shinjiro Kobayashi, 2007 International Symposium on NanoBioSciences., Seoul, Korea (2007.8) (\*金沢大・病)
- 171) A novel transmetallation of triarylstibanes into arylboronate: boro-induced ipso-deantimonation and its theoretical calculation, Shuji Yasuike, Kazuhide Nakata\*, Weiwei Qin, Toshiyuki Kaji, Jyoji Kurita, 14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 14), 奈良 (2007.8) (\*法政大・自然セ)
- 172) Palladium-catalyzed cross-coupling reaction of triarylantimony diacetates with arylboronic acids, Shuji Yasuike, Weiwei Qin, Masatoshi Kawahata\*, Yoshiyuki Sugawara, Kentaro Yamaguchi\*, Jyoji Kurita, 14th IUPAC International Symposium on Organometallic Chemistry Directed Towards Organic Synthesis (OMCOS 14), 奈良 (2007.8) (\*徳島文理大香川・薬)
- 173) Structure-activity relationship of flavonoids for inhibition of insulin-stimulated glucose uptake in mouse MC3T3-G2/PA6 adipocytes, Masaaki Nomura, Ken-ichi Miyamoto\*, Shinjiro Kobayashi, 2007 International Symposium on NanoBioSciences, Seoul, Korea (2007.8) (\*金沢大・病院薬)
- 174) ヒト脳微小血管内皮細胞に対するメチル水銀の毒性発現, 廣岡孝志, 第26回チョークトーク「生体と金属に関する研究会」, つくば (2007.8)
- 175) Experimental studies on the pharmacodynamic effects of *Orobancha cumana* as a novel medicinal resource, 劉東春, 王芳\*, 劉園英, 殷軍\*, 李玉山\*, 王東\*, 崔征\*, 第24回和漢医薬学会大会, 富山 (2007.9) (\*瀋陽薬科大)
- 176) ストレプトゾトシン糖尿病マウスの血中インスリン低下に対する粉防已成分 Fangchinoline と黄耆成分 Formononetin の複合作用, Ma Wenjie, 野村政明, 西岡 (高橋) 達雄, 古林伸二郎, 第24回和漢医薬学会大会, 富山 (2007.9)
- 177) Neurotrophic effect of genipin: neuroprotective action on tunicamycin-induced cytotoxicity in neuro2a cells, 田中聖之, 山崎眞津美, 千葉賢三, 第30回日本神経科学大会, 第50回日本神経化学学会大会, 第17回日本神経回路学会大会, 合同大会, 横浜 (2007.9)
- 178) Computer simulation of target molecule of genipin with neurotrophic factor-like activity: Interaction of genipin-related compounds and tetrahydrobiopterin binding domain in neuronal NO synthase, 千葉賢三, 山崎眞津美, 鈴木宏一, 澤西啓之, 第30回日本神経科学大会, 第50回日本神経化学学会大会, 第17回日本神経回路学会大会, 合同大会, 横浜 (2007.9)
- 179) Protective effect of genipin on the typical ER stress-induced cell death, 山崎眞津美, 千葉賢三, 第30回日本神経科学大会, 第50回日本神経化学学会大会, 第17回日本神経回路学会大会, 合同大会, 横浜 (2007.9)
- 180) 大麻主成分カンナビノイドによるヒト薬物代謝酵素シトクロム P450 の阻害作用と



その分子機構，山折大（渡辺和人研究室），北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド—毒変じて薬となる？—（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）

- 181) カンナビノイド及び関連化合物のCB<sub>1</sub>受容体結合における構造活性相関，木村敏行（渡辺和人研究室），北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド—毒変じて薬となる？—（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）
- 182) 大麻摂取が疑われた変死体中からの多剤乱用薬物検出例，寺田賢\*，木村敏行，渡辺和人，山本郁男\*\*，的場梁次\*\*\*，黒崎久仁彦\*，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウムカンナビノイド—毒変じて薬となる？—（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（\*東邦大・医，\*\*九州保福大，\*\*\*阪大院）
- 183) Δ<sup>9</sup>-テトラヒドロカンナビノールによるヒト乳がん細胞（MCF-7）増殖促進作用：カンナビノイド受容体非依存的機構の可能性，竹田修三，山折大，木村敏行，山本郁男\*，渡辺和人，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド—毒変じて薬となる？—（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（\*九州保福大・薬）
- 184) 大麻主成分テトラヒドロカンナビノールのマクロファージに対する毒性発現機構—CB<sub>2</sub>受容体及びMAPKの関与，石井浩介，山折大，舟橋達也\*，木村敏行，山本郁男\*\*，渡辺和人，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド—毒変じて薬となる？—（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（\*松山大・薬，\*\*九州保福大・薬）
- 185) CYP2C9活性に対するカンナビノイドの阻害と遺伝子多型の重要性，串原美佳，山折大，舟橋達也\*，木村敏行，山本郁男\*\*，渡辺和人，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド—毒変じて薬となる？—（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（\*松山大・薬，\*\*九州保福大・薬）
- 186) 大麻抽出物投与のラット副腎Steroidogenic Acute Regulatory（StAR）タンパク質発現量への影響，三澤宏一郎，舟橋達也\*，山折大，木村敏行，山本郁男\*\*，山崎岳\*\*\*，渡辺和人，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド—毒変じて薬となる？—（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（\*松山大・薬，\*\*九州保福大・薬，\*\*\*広島大）
- 187) カンナビノイドをリード化合物とする創薬—ハロゲン置換カンナビノイドを中心として，渡辺和人，館岡裕二\*，吉田久俊，奥田武詩，山折大，木村敏行，宇佐見則行\*\*，山本郁男\*\*，北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド—毒変じて薬となる？—（大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで）」，金沢（2007.9）（\*イスクラ産業，\*\*九州保福大・薬）

- 188) 我が国における大麻乱用の歴史—過去60年間, 渡辺和人, 山折大, 舟橋達也\*, 木村敏行, 宇佐見則行\*\*, 井本真澄\*\*, 山本郁男\*\*, 北陸大学学術フロンティア公開シンポジウム「カンナビノイド—毒変じて薬となる?—(大麻成分カンナビノイドの薬理・毒性・代謝から創薬まで)」, 金沢 (2007.9) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
- 189) メチル水銀は傷害した培養脳微小血管内皮細胞層の修復をFGF-2システムの抑制を通じて阻害する, 廣岡孝志, 藤原泰之\*, 山本千夏, 井上頌子, 南有香, 新開泰弘, 安武章\*\*, 鍛冶利幸, メタロチオネインおよびメタロバイオサイエンス研究会2007, 大阪 (2007.9) (\*愛知学院大・薬, \*\*国立水俣研)
- 190) お茶と健康, 劉園英, 第15回TOYAMA植物フォーラム, 富山 (2007.10)
- 191) Significance of CYP2C9 genetic polymorphism in inhibitory effects of major cannabinoids, Mika Kushihara, Satoshi Yamaori, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*\*, Kazuhito Watanabe, 8th International ISSX Meeting, 仙台 (2007.10) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
- 192) Nafamostat is efficiently hydrolyzed by human liver cytosolic enzyme: involvement of long chain acyl-CoA hydrolase, Satoshi Yamaori, Eriko Ukena, Nobuhiro Fujiyama, Tatsuya Funahashi\*, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*\*, Tohru Ohshima, Kenji Matsumura, Minoru Oda, Kazuhito Watanabe, 8th International ISSX Meeting, 仙台 (2007.10) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
- 193) Interaction of cytochrome P450 3A4 and UDP-Glucuronosyltransferase 2B7: Possible involvement of a region Located in the J-Helix of CYP3A4 in the interaction, Yuji Ishii\*, Shuso Takeda, Arief Nurrochmad\*, Yûki Iwamoto\*, Yuji Ito\*\*, Peter I. Mackenzie\*\*\*, Kiyoshi Nagata\*\*\*\*, Yasushi Yamazoe\*\*\*\*\*, Kazuta Oguri\*\*\*\*\*, Hideyuki Yamada\*, 8th International ISSX Meeting, 仙台 (2007.10) (\*九大院・薬, \*\*鹿児島大, \*\*\*フリンダース大・医, \*\*\*\*東北薬大, \*\*\*\*\*東北大院・薬, \*\*\*\*\*九州保福大・薬)
- 194)  $\beta$ -Amyloid 蛋白による神経細胞死における当帰芍薬散の制御作用に関する研究, 劉園英, 平成19年度日本東洋医学会北陸支部奨励賞受賞講演, 富山 (2007.10)
- 195) (S)-(Ferrocenyl)(p-Tolyl) Sulfoxide を利用した新規光学活性Sb誘導体の合成, 安池修之, 萩原淳一, 栗田城治, 平成19年度有機合成北陸セミナー, 金沢 (2007.10)
- 196) 銅触媒および塩基を必要としないトリフェニルアンチモンジアセテートを用いた菌頭型カップリング反応, 安池修之, 王軒, 秦薇薇, 栗田城治, 平成19年度有機合成北陸セミナー, 金沢 (2007.10)
- 197) 亜ヒ酸ナトリウムによる血管平滑筋細胞プロテオグリカン合成の阻害, 藤原泰之\*, 山本千夏, 廣岡孝志, 寺田奈緒子, 佐藤雅彦\*, 鍛冶利幸, フォーラム2007衛生薬学・環境トキシコロジー, 大阪 (2007.11) (\*愛知学院大・薬)

- 198) メチル水銀による傷害内皮細胞層の修復阻害：FGF-2系およびVEGF系は関与するの？，廣岡孝志，藤原泰之<sup>\*</sup>，山本千夏，井上頌子，新開泰弘，安武章<sup>\*\*</sup>，鍛冶利幸，フォーラム2007衛生薬学・環境トキシコロジー，大阪（2007.11）（<sup>\*</sup>愛知学院大・薬，<sup>\*\*</sup>国立水俣研）
- 199) 血管内皮細胞においてヘパラン硫酸プロテオグリカンの大型分子種パールカンの合成を誘導する有機アンチモン化合物，小西智子，藤原泰之<sup>\*</sup>，山本千夏，安池修之，角澤直紀，秦薇薇，栗田城治，鍛冶利幸，フォーラム2007衛生薬学・環境トキシコロジー，大阪（2007.11）（<sup>\*</sup>愛知学院大・薬）
- 200) 血管内皮細胞プロテオグリカンの代謝調整因子としてのトロンボスポンジン-1，寺田奈緒子，山本千夏，藤原泰之<sup>\*</sup>，鍛冶利幸，フォーラム2007衛生薬学・環境トキシコロジー，大阪（2007.11）（<sup>\*</sup>愛知学院大・薬）
- 201) ヒト乳がん細胞（MCF-7）増殖に与える $\Delta^9$ -テトラヒドロカンナビノールの影響—カンナビノイド受容体を介さない新規機構の可能性，竹田修三，山折大，木村敏行，山本郁男<sup>\*</sup>，渡辺和人，フォーラム2007衛生薬学・環境トキシコロジー，大阪（2007.11）（<sup>\*</sup>九州保福大・薬）
- 202) シトクロム P450 3A4(CYP3A4)とUGT1A サブファミリーの相互作用について，追崎俊也<sup>\*</sup>，竹田修三，西村嘉雄<sup>\*</sup>，田浦太志<sup>\*</sup>，森元聡<sup>\*</sup>，生城真一<sup>\*\*</sup>，Peter I. Mackenzie<sup>\*\*\*</sup>，永田清<sup>\*\*\*\*</sup>，山添康<sup>\*\*\*\*\*</sup>，石井祐次<sup>\*</sup>，山田英之<sup>\*</sup>，フォーラム2007衛生薬学・環境トキシコロジー，大阪（2007.11）（<sup>\*</sup>九大院・薬，<sup>\*\*</sup>富山大・工，<sup>\*\*\*</sup>フリンダース大・医，<sup>\*\*\*\*</sup>東北薬大，<sup>\*\*\*\*\*</sup>東北大院・薬）
- 203) 有機アンチモン化合物からのアリールホウ酸誘導体への交換とクロスカップリング反応への応用，安池修之，秦薇薇，中田和秀<sup>\*</sup>，鍛冶利幸，栗田城治，第33回反応と合成の進歩シンポジウム，長崎（2007.11）（<sup>\*</sup>法政大・自然セ）
- 204) フェロセン官能基を持つ新規光学活性有機Sb化合物の合成，安池修之，萩原淳一，川幡正俊<sup>\*</sup>，山口健太郎<sup>\*</sup>，栗田城治，第33回反応と合成の進歩シンポジウム，長崎（2007.11）（<sup>\*</sup>徳島文理大香川・薬）
- 205) ハーブティーの便通促進効果と安全性，上馬場和夫<sup>\*</sup>，池田商洋<sup>\*\*</sup>，劉園英，大谷千晴<sup>\*\*</sup>，大野智<sup>\*\*\*</sup>，新井隆成<sup>\*\*\*\*</sup>，林浩孝<sup>\*\*\*\*\*</sup>，許鳳浩<sup>\*</sup>，小川弘子<sup>\*</sup>，鈴木信孝<sup>\*\*\*</sup>，第10回日本補完・代替医療学会学術集会，福岡（2007.11）（<sup>\*</sup>富山国際伝統医学セ，<sup>\*\*</sup>池田病院，<sup>\*\*\*</sup>金大院，<sup>\*\*\*\*</sup>金大医・病，<sup>\*\*\*\*\*</sup>金大ベンチャー・ビジネス・ラボ）
- 206) ハーブティーの冷え症改善効果と安全性，上馬場和夫<sup>\*</sup>，池田商洋<sup>\*\*</sup>，劉園英，大谷千晴<sup>\*\*</sup>，大野智<sup>\*\*\*</sup>，新井隆成<sup>\*\*\*\*</sup>，林浩孝<sup>\*\*\*\*\*</sup>，許鳳浩<sup>\*</sup>，小川弘子<sup>\*</sup>，鈴木信孝<sup>\*\*\*</sup>，第10回日本補完・代替医療学会学術集会，福岡（2007.11）（<sup>\*</sup>富山国際伝統医学セ，<sup>\*\*</sup>池田病院，<sup>\*\*\*</sup>金大院，<sup>\*\*\*\*</sup>金大医・病，<sup>\*\*\*\*\*</sup>金大ベンチャー・ビジネス・ラボ）
- 207) Sb(V)を用いた銅触媒を必要としない菌頭型カップリング反応，安池修之，王軒，

- 秦薇薇, 栗田城治, 日本薬学会北陸支部第117回例会, 金沢 (2007.11)
- 208) ( $S_{Fc}$ )-1-[Di(*p*-tolyl)stibano]-2-[2-di(*p*-tolyl)stibanophenyl]ferrocene の合成とその不斉配位子能, 安池修之, 萩原淳一, 檀上博史\*, 山口健太郎\*, 栗田城治, 日本薬学会北陸支部第117回例会, 金沢 (2007.11) (\*徳島文理大香川・薬)
- 209) 大麻幻覚成分テトラヒドロカンナビノールのマクロファージに対する毒性発現のメカニズム—カンナビノイドCB<sub>2</sub>受容体の関与, 石井浩介, 山折大, 木村敏行, 竹田修三, 千葉賢三, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会北陸支部第117回例会, 金沢 (2007.11) (\*九州保福大・薬)
- 210) The protective effects of Toki-shakuyaku-san (TJ-23) on  $\beta$ -amyloid protein( $\beta$ 40)-induced apoptosis in PC12 cells, Yuan Ying Liu, The 4th International Congress of Traditional Medicine, Singapore (2007.11)
- 211) Metabolic interactions of cannabinoids with steroid hormones, Kazuhito Watanabe, The Convention of the Korean Society of Applied Pharmacology, Research Trends in Metabolomics, Seoul, Korea (2007.11)
- 212) 新世代の金属毒性学, 鍛冶利幸, 国立水俣病総合研究センター招待講演, 水俣 (2007.12)
- 213) genipin の神経栄養因子作用: PC12h細胞に対する遺伝子発現調節, 千葉賢三, 山崎眞津美, 第30回日本分子生物学会年会, 第80回日本生化学会大会, 合同大会, 横浜 (2007.12)
- 214) genipin の神経栄養因子作用: 小胞体ストレス障害に対するNOを介した防護効果, 山崎眞津美, 千葉賢三, 第30回日本分子生物学会年会, 第80回日本生化学会大会, 合同大会, 横浜 (2007.12)
- 215) Role of Nrf2/Keap1 system in protection against arsenic-induced cytotoxicity, Yasuhiro Shinkai, Daigo Sumi\*, Keiko Taguchi\*\*, Masayuki Yamamoto\*\*, Toshiyuki Kaji, Yoshito Kumagai\*, The 2nd JST-ERATO Yamamoto Environmental Response Project International Symposium, つくば (2007.12) (\*筑波大院・人間総合科学, \*\*東北大院・医)
- 216) Development of drug targeting to bone, Tatsuo Takahashi-Nishioka, 第5回北陸大学・キョンヒ大学校・瀋陽薬科大学合同シンポジウム, 金沢 (2008.2)
- 217) 骨への薬物輸送による新規創薬, 高橋達雄, 横川弘一\*, 戸松俊治\*\*, 野村政明, 古林伸二郎, 宮本謙一\*, 第81回薬理学会年会, 横浜 (2008.3) (\*金沢大・病, \*\*セントリス大)
- 218) ストレプトゾトシン糖尿病動物の高血糖と脈絡膜血管新生異常に対する漢方薬粉防已成分FangchinolineとTetrandrineの抑制作用機序, 古林伸二郎, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 219) Iridoid化合物, genipin, およびその関連化合物の神経栄養因子作用, 千葉賢三,

- 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 220) コモンマーモセットにおけるメチル水銀毒性, 安武章 (国立水保研), 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 221) 血管構成細胞のプロテオグリカン合成に対する亜ヒ酸の阻害作用, 藤原泰之 (愛知学院大・薬), 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 222) 計算化学を基盤とした反応解析・合成設計・物性予測への挑戦, 内山真伸 (理研), 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 223) 空気雰囲気下で行う5価有機アンチモン化合物を利用した効率的園頭型反応, 安池修之, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 224) Genipin 誘導体の神経突起誘導活性と構造活性相関, 鈴木宏一, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 225) ヒト脳微小血管内皮細胞層に対するメチル水銀の毒性発現, 廣岡孝志, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 226) 動脈硬化の抑止に有用な活性を有する硫酸化多糖類および有機金属化合物, 山本千夏, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 227)  $\beta$ -Amyloid proteinによる細胞障害における漢方複合剤の制御効果, 劉園英, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 228) ヒトCYP3A分子種に対する主要カンナビノイドの阻害作用, 山折大, 平成19年度北陸大学学術フロンティア年次研究集会「生活習慣病と生活環境病」, 金沢 (2008.3)
- 229) ヒト脳微小血管周皮細胞に対するメチル水銀の細胞密度依存的な傷害性, 廣岡孝志, 藤原泰之\*, 南有香, 山本千夏, 新開泰弘, 安武章\*\*, 鍛冶利幸, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*愛知学院大・薬, \*\*国立水保研)
- 230) 血管内皮細胞における鉛に対する小胞体ストレス応答とそれに伴うNrf2の活性化, 新開泰弘, 岩崎奈津美, 山本千夏, 鍛冶利幸, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
- 231) トロンボスポンジン-1による血管内皮細胞プロテオグリカン代謝の細胞密度依存的な調節, 寺田奈緒子, 山本千夏, 藤原泰之\*, 鍛冶利幸, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*愛知学院大・薬)



- 232) メチル水銀はヒト脳微小血管周皮細胞においてシンデカン-4の発現を誘導する, 田中満崇, 廣岡孝志, 藤原泰之\*, 井上頌子, 山本千夏, 新開泰弘, 安武章\*\*, 鍛冶利幸, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*愛知学院大・薬, \*\*国立水俣研)
- 233) 増殖期の血管内皮細胞プロテオグリカン合成に対する亜鉛の影響, 藤原泰之\*, 山本千夏, 佐藤雅彦\*, 鍛冶利幸, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*愛知学院大・薬)
- 234) ラット精巢  $3\beta$ -hydroxysteroid dehydrogenase/ $\Delta^5$ - $\Delta^4$  isomerase に対するカンナビノイドの阻害作用, 三澤宏一郎, 舟橋達也\*, 竹田修三, 山折大, 木村敏行, 渡辺和人, 山本郁男\*\*, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*松山大・薬, \*\*九州保福大・薬)
- 235) ヒト CYP1 分子種の酵素活性に対する主要カンナビノイドの阻害作用, 串原美佳, 山折大, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*九州保福大・薬)
- 236) 分子モデリングによるカンナビノイドと CYP1A1, 1A2 および 1B1 との相互作用の研究, 増田和文\*, 山折大, 串原美佳, 成松鎮雄\*, 渡辺和人, 勝孝\*, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*岡山大院・医歯薬)
- 237) カルボキシエステラーゼによる局所麻酔薬の加水分解におけるアルコール体の影響, 井本真澄\*, 宇佐見則行\*, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*九州保福大・薬)
- 238) シトクロム P450 3A4 と UDP-グルクロン酸転移酵素 1A サブファミリーとの機能的相互作用, 追崎俊也\*, 石井佑次\*, 竹田修三, 西村嘉雄\*, 田浦太志\*, 森元聡\*, 生城真一\*\*, Peter I. Mackenzie\*\*\*, 永田清\*\*\*\*, 山添康\*\*\*\*\*, 山田英之\*, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*九大院・薬, \*\*富山県立大・工, \*\*\*フリンダース大・医, \*\*\*\*東北薬科大・薬, \*\*\*\*\*東北大院・薬)
- 239) 粉防已成分の細胞増殖抑制効果, 野村政明, 高橋純子, 高橋達雄, 高屋牧子, 森谷修三\*, 古林伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*福井大・看護)
- 240) 粉防已成分 tetrandrine の骨粗鬆症治療効果, 高橋達雄, 利波佑介, 野村政明, 古林伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
- 241) ストレプトゾトシン糖尿病マウスの血糖降下に対する粉防已成分 Fangchinoline と黄耆成分の複合作用機序, Ma Wenjie, 鈴木智子, 野村政明, 高橋達雄, 古林伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
- 242) ヒト子宮頸癌 Hela 細胞に対する 23-hydroxyursolic acid のアポトーシス誘導作用機序, 高屋牧子, 近藤洋子, 野村政明, 高橋達雄, Lee Kyung-Tae\*, 古林伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*慶熙大・薬)
- 243) TNF- $\alpha$  による脈絡膜血管新生亢進作用に対する粉防已成分 tetrandrine の抑制作用機序, 菊池穂, 石原章奈, 遠藤園子, 野村政明, 高橋達雄, 古林伸二郎, 日本



- 薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
- 244) カバノアナタケから抽出したトリテルペンの抗腫瘍活性作用, 上杉愛美, 野村政明, 高橋達雄, 田中麗子\*, 古林伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*大阪薬科大)
- 245) N<sup>c</sup>-(carboxymethyl)lysine の脈絡膜血管新生亢進作用機序の検討, 石原章奈, 菊池穂, 野村政明, 高橋達雄, 永井竜児\*, 古林伸二郎, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*熊本大・医)
- 246) 神経栄養因子作用物質, ゲニピンの安定誘導体: 1-isopropoxygenipin の光学異性体と活性との関連, 鈴木宏一, 山崎眞津美, 具志堅早美, 千葉賢三, 澤西啓之, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
- 247) 神経保護様作用物質ゲニピンの小胞体ストレスに対する作用, 田中聖之, 山崎眞津美, 千葉賢三, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
- 248) Raf-1 を介した genipin の突起伸展作用, 山崎眞津美, 千葉賢三, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
- 249) 5 価有機アンチモン化合物を利用した菌頭型カップリング反応, 王軒, 安池修之, 秦薇薇, 川幡正俊\*, 山口健太郎\*, 栗田城治, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3) (\*徳島文理大香川・薬)
- 250) トリ及びテトラアリアルアンチモンカルボキシラート類を用いた Ullmann 型 *N*-アリアル化反応, 秦薇薇, 角澤直紀, 安池修之, 栗田城治, 日本薬学会第128年会, 横浜 (2008.3)
- 251) トリフェニルスチバンからフェニルホウ酸誘導体への金属交換の反応機構に関する理論研究, 中田和秀\*, 安池修之, 秦薇薇, 鍛冶利幸, 栗田城治, 日本化学会第88春季年会, 東京 (2008.3) (\*法大・自然セ)
- 252) アディポネクチンによる血管平滑筋細胞デコリン合成の誘導, 山本千夏, 浦野晶子, 鍛冶利幸, 第78回日本衛生学会総会, 熊本 (2008.3)
- 253) 鉛による血管内皮細胞の増殖阻害とその機序について, 藤原泰之\*, 山本千夏, 佐藤雅彦\*, 鍛冶利幸, 第78回日本衛生学会総会, 熊本 (2008.3) (\*愛知学院大・薬)
- 254) 周生期脳障害における神経幹細胞を用いた新規治療法の基礎研究, 伊田みちる\*\*\*, 時田義人\*\*, 中西圭子\*\*, 松井ふみ子\*\*, 青野幸子\*\*, 藤田寛\*\*\*, 藤原泰之\*\*\*\*, 鍛冶利幸, 加藤昌志\*, 大平敦彦\*\*, 第78回日本衛生学会総会, 熊本 (2008.3) (\*中部大, \*\*愛知コロニー研, \*\*\*生化学工業, \*\*\*\*愛知学院大・薬)
- 255) バイオオルガノメタリクスの夜明け, 鍛冶利幸, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティングー機能性有機金属の創製とその生体機能解析, 毒性及び創薬研究への統合的応用一, 長浜 (2008.4)
- 256) アンチモンを中心とする典型重元素化合物の創製と機能, 安池修之, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティングー機能性有機金属の創製とその生体機能

- 解析, 毒性及び創薬研究への統合的応用一, 長浜 (2008.4)
- 257) 分子モデリングによるカンナビノイドとヒトCYP分子種の相互作用解析, 増田和文\*, 山折大, 串原美佳, 勝孝\*\*, 成松鎮雄\*\*, 渡辺和人, モレキュラー・キラリティー2008, 岡山 (2008.5) (\*就実大・薬, \*\*岡山大院・医歯薬)
- 258) NOによるTrkA非依存的な神経突起伸展, 山崎眞津美, 千葉賢三, 第8回日本NO学会学術集会, 仙台 (2008.5)
- 259) Genipinおよび1-AlkyloxygenipinのnNOS-Tetrahydrobiopterin結合領域での相互作用の可能性, 鈴木宏一, 山崎眞津美, 千葉賢三, 澤西啓之, 第8回日本NO学会学術集会, 仙台 (2008.5)
- 260) 14-Sb-7型超原子価有機アンチモン化合物の構造解析と園頭型反応への応用, 安池修之, 王軒, 川幡正俊\*, 秦薇薇, 角澤直紀, 山口健太郎\*, 栗田城治, 第75回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会・第77回計測自動制御学会力学量計測部会の第25回合同シンポジウム, 金沢 (2008.5) (\*徳島文理大香川・薬)
- 261) 血管内皮細胞においてヘパラン硫酸プロテオグリカンの大型分子種パルカンの合成を選択的に誘導する有機アンチモン化合物, 山本千夏, 小西智子, 秦薇薇, 角澤直紀, 安池修之, 栗田城治, 鍛冶利幸, 第75回日本分析化学会有機微量分析研究懇談会・第77回計測自動制御学会力学量計測部会の第25回合同シンポジウム, 金沢 (2008.5)
- 262) 重金属の毒性を担う分子標的とその解明研究をめぐる新しい展開, 鍛冶利幸, 徳島文理大学特別講演会, 徳島 (2008.5)
- 263)  $\beta$ -Amyloid proteinによる神経細胞死に対する抑肝散の制御効果, 劉園英, 李代偉, 第59回日本東洋医学会学術総会, 仙台 (2008.6)
- 264)  $\Delta^9$ -テトラヒドロカンナビノール, カンナビジオール及びカンナビノールによるヒトCYP1酵素の代謝依存的阻害の解析, 山折大, 串原美佳, 木村敏行, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第27年会, 東京 (2008.6) (\*九州保福大・薬)
- 265) カンナビジオール酸, 大麻草中の選択的シクロオキシゲナーゼ-2活性阻害成分, 竹田修三, 三澤宏一郎, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第27年会, 東京 (2008.6) (\*九州保福大・薬)
- 266) エステル型薬毒物の加水分解反応に及ぼすアルコール体の影響, 井本真澄\*, 宇佐見則行\*, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本法中毒学会第27年会, 東京 (2008.6) (\*九州保福大・薬)
- 267) 血管内皮細胞のプロテオグリカン合成を調節するアンチモン含有分子プローブの探索, 山本千夏, 小西智子, 角澤直紀, 安池修之, 栗田城治, 鍛冶利幸, 第9回Pharmaco-Hematologyシンポジウム, 東京 (2008.6)
- 268) カドミウムの毒性防御の細胞応答システムを担う転写因子Nrf2, 新開泰弘, 山本千夏, 熊谷嘉人\*, 山本雅之\*\*, 鍛冶利幸, 第35回日本トキシコロジー学会学術年会, 東京 (2008.6) (\*筑波大院・人間総合科学, \*\*東北大院・医)

- 269) 有機ビスマス化合物 tris[2-(N,N -dimethylaminomethyl)phenyl]-bismuthane (TDPBI) は血管内皮細胞に対して選択的に細胞毒性を発現する, 藤原泰之\*, 深谷允, 山本千夏, 安池修之, 栗田城治, 佐藤雅彦\*, 鍛冶利幸, 第35回日本トキシコロジー学会学術年会, 東京 (2008.6) (\*愛知学院大・薬)
- 270) Action mechanism of  $\Delta^9$ -tetrahydrocannabinol to potentiate barbiturate- or benzodiazepine-induced sleep in mice, Toshiyuki Kimura, Satoshi Yamaori, Noriyuki Usami\*, Ikuo Yamamoto\*, Kazuhito Watanabe, ICRS2008, Aviemore, Scotland (2008.7) (\*九州保福大・薬)
- 271) Selectivity of major cannabinoids toward inhibition of human CYP3A isoforms, Satoshi Yamaori, Jyuri Ebisawa, Toshiyuki Kimura, Ikuo Yamamoto\*, Kazuhito Watanabe, MDO2008, Saratoga Springs, U.S.A. (2008.7) (\*九州保福大・薬)
- 272) Reduction of nitroarenes to azoxyarenes with *Sb*-aryl-1,5-azastibocine/benzoin system, Jyoji Kurita, Yoshiyuki Sugawara, Naoki Kakusawa, Shuji Yasuike, 23th International Conference on Organometallic Chemistry, Rennes, France (2008.7)
- 273) Cu-mediated Ullmann-type *N*-arylation by use of Acetoxytetraarylstiboranes, Weiwei Qin, Yichen Wu, Naoki Kakusawa, Jyoji Kurita, 23th International Conference on Organometallic Chemistry, Rennes, France (2008.7)
- 274) The protective effect of YOCU-CAN-SAN (TJ54) on  $\beta$ -Amyloid protein-induced apoptosis in PC12 cells, Yuan Ying Liu, Daiwei Li, Alzheimer's Association International Conference on Alzheimer's Disease, Chicago (2008.7)
- 275) メチル水銀の部位特異的神経毒性発現機構としての血管毒性, 廣岡孝志, 第27回チョークトーク水俣「生体と金属・化学物質に関する研究会」, 水俣 (2008.8)
- 276) カドミウムに対する血管内皮細胞の防御応答を担う Nrf2/Keap1 システム, 新開泰弘, 第27回チョークトーク水俣「生体と金属・化学物質に関する研究会」, 水俣 (2008.8)
- 277) 難治性皮膚炎 (アトピー性皮膚炎) 治療に対する温清飲合十味敗毒湯の臨床応用, 劉園英, 竹村修\*, 第8回日本臨床中医薬学会学術大会, 埼玉 (2008.9) (\*金沢映寿会みらい病院)
- 278) 未病における漢方の役割—牛黄清心元の活かし方, 劉園英, 第27回近畿連合清心会大会, 京都 (2008.9)
- 279) インドール・ベンゾフラン誘導体の構造と分光学的性質におけるヘテロ原子置換の効果, 村中厚哉\*, 安池修之, 劉青原, 栗田城治, 小林長夫\*\*, 吉田健吾\*, 内山真伸\*, 第19回基礎有機化学討論会, 大阪 (2008.10) (\*理研, \*\*東北大・理)
- 280) 血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞毒性を担うメカニズムとしての FGF-2 システム, 宮内靖世, 山本千夏, 新開泰弘, 廣岡孝志, 鍛冶利幸, フォーラム2008:

- 衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10)
- 281) メチル水銀投与ラット脳の病理組織学的変化：小脳障害のメカニズムに関する新しい仮説, 杜可, 山本千夏, 廣岡孝志, 安武章\*, 勝田省吾\*\*, 鍛冶利幸, フォーラム2008：衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10) (\*国立水俣研, \*\*金沢医大)
- 282) VEGFの自己分泌／傍分泌型調節システムは脳微小血管組織におけるメチル水銀毒性の標的である, 廣岡孝志, 山本千夏, 石井明彦, 石郷岡美緒, 新開泰弘, 安武章\*, 鍛冶利幸, フォーラム2008：衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10) (\*国立水俣研)
- 283) 血管内皮細胞においてカドミウムの毒性に対する防御機構を担うNrf2/Keap1系, 新開泰弘, 板垣礼香, 木村朋紀\*, 山本千夏, 熊谷嘉人\*\*, 山本雅之\*\*\*, 鍛冶利幸, フォーラム2008：衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10) (\*摂南大・薬, \*\*筑波大院・人間総合科学, \*\*\*東北大院・医)
- 284)  $\Delta^9$ -テトラヒドロカンナビノールによるMCF-7細胞増殖の細胞内エストロジェン産生系による調節, 竹田修三, 山本郁男\*, 渡辺和人, フォーラム2008：衛生薬学・環境トキシコロジー, 熊本 (2008.10) (\*九州保福大・薬)
- 285) 日向夏のCaco-2細胞におけるエステラーゼ活性の阻害作用, 井本真澄\*, 宇佐見則行\*, 山本郁男\*, 細井信造\*, 佐久嶋明世\*, 渡辺和人, 第23回日本薬物動態学会年会, 熊本 (2008.10) (\*九州保福大・薬)
- 286) 銅触媒および塩基を必要としない有機アンチモン(V)化合物を利用した効率的菌頭型反応, 安池修之, 王軒, 秦薇薇, 川幡正俊\*, 角澤直紀, 山口健太郎\*, 栗田城治, 第34回反応と合成の進歩シンポジウム, 京都 (2008.11) (\*徳島文理大香川・薬)
- 287) 環境と健康—健康を脅かす環境問題, 鍛冶利幸, 北國生きがい支援事業北陸大学プログラム「長寿県いしかわを目指して」～21世紀の健康と医療～第2回フォーラム, 金沢 (2008.11)
- 288) NOによるRaf-1を介したTrkA非依存的な神経突起伸展, 山崎眞津美, 千葉賢三, 第81回日本生化学会大会, 神戸 (2008.12)
- 289) 銅触媒を用いたテトラアリアルアンチモンアセテート類によるインドール類のN-アリアル化反応, 秦薇薇, 角澤直紀, 安池修之, 栗田城治, 第35回有機典型元素化学討論会, 京都 (2008.12)
- 290) シトクロムP450 3A4とUDP-グルクロン酸転移酵素の機能的相互作用：UGT分子種特異性, 岩本有樹\*, 追崎俊也\*, Arief Nurrochmad\*, 竹田修三, 西村嘉雄\*, 生城真一\*\*, 田浦太志\*, 森元聡\*, 永田清\*\*\*, 山添康\*\*\*\*, Peter I. Mackenzie\*\*\*\*\*, 石井佑次\*, 山田英之\*, 第25回日本薬学会九州支部大会, 宮崎 (2008.12) (\*九大院・薬, \*\*富山大・工, \*\*\*東北薬科大・薬, \*\*\*\*東北大院・薬, \*\*\*\*\*フリンダース大・医)

- 291) メチル水銀の部位特異的な中枢神経障害発現要因としての血管毒性, 廣岡孝志, 鍛冶利幸, 日本薬学会第129年会シンポジウム: 若手が切り開く Molecular Toxicology 4~有害金属類の毒性発現と防御を担う分子標的と生体応答システム~, 京都 (2009.3)
- 292) FGF-2 システムは血管内皮細胞に対するカドミウムの細胞毒性を担うメカニズムである, 山本千夏, 宮内靖世, 新開泰弘, 廣岡孝志, 鍛冶利幸, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
- 293) 鉛に曝露した血管内皮細胞における PERK 経路を介した Nrf2 の活性化と毒性防御, 新開泰弘, 岩崎奈津美, 山本千夏, 鍛冶利幸, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
- 294) メチル水銀中毒ラットの脳顆粒細胞層における炎症性変化を伴った退行性変化, 杜可, 廣岡孝志, 山本千夏, 安武章\*, 勝田省吾\*\*, 鍛冶利幸, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (\*国立水保研, \*\*金沢医大)
- 295) カンナビジオール誘導体, カンナビジオール-2',6'-ジメチルエーテル: 選択的かつ強力な15-リポキシゲナーゼ阻害剤, 竹田修三, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (\*九州保福大・薬)
- 296) 11-ヒドロキシ- $\Delta^8$ -テトラヒドロカンナビノールの CYP2C9 による代謝反応における重水素同位体効果および立体選択性, 中原亨, 山本郁男\*, 渡辺和人, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (\*九州保福大・薬)
- 297) 日向夏成分のエステラーゼ阻害作用とその阻害物質の探索, 井本真澄\*, 宇佐見則行\*, 山本郁男\*, 細井信造\*, 佐久嶋明世\*, 渡辺和人, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (\*九州保福大・薬)
- 298) カンナビノイドによるヒト CYP1A1, -1A2 および -1B1 の EROD 活性阻害機構の分子モデリング, 増田和文\*, 山折大, 串原美佳, 勝孝\*\*, 成松鎮雄\*\*, 渡辺和人, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3) (\*就実大・薬, \*\*岡山大院・医歯薬)
- 299) 脂肪細胞のグルコースの取り込みにおける粉防已成分 Fangchinoline と黄耆成分 Formononetin の効果, 王佳虹, Ma Wenjie, 野村政明, 高橋達雄, 古林伸二郎, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
- 300) 低接着プレートにおけるマウス上皮細胞 C141 細胞の増殖機構の検討, 板谷友里恵, 百瀬公博, 西尾千尋, 野村政明, 高橋達雄, 古林伸二郎, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
- 301) ゲニピンの神経栄養因子様作用: Neuro2a 細胞に対する遺伝子発現調節, 千葉賢三, 山崎眞津美, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
- 302) 神経栄養因子様活性を有する Genipin 誘導体の構造活性相関 (1), 山崎眞津美, 鈴木宏一, 長尾亮太, 千葉賢三, 澤西啓之, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
- 303) 神経栄養因子様活性を有する Genipin 誘導体の構造活性相関 (2), 鈴木宏一, 山崎眞津美, 長尾亮太, 千葉賢三, 澤西啓之, 日本薬学会第129年会, 京都 (2009.3)
- 304) トリアリールビスマス類を利用した銅触媒下での非対称チオエーテル類の合成, 西

岡元一，安池修之，栗田城治，日本薬学会第129年会，京都（2009.3）

- 305) 5 価有機アンチモン化合物を利用したPd触媒下のホウ素—アリール化反応，董宇強，秦薇薇，角澤直紀，安池修之，栗田城治，日本薬学会第129年会，京都（2009.3）
- 306) テトラアリールアンチモンアセテート類を用いたアゾール類のUllmann型*N*-アリール化反応，秦薇薇，角澤直紀，安池修之，栗田城治，日本薬学会第129年会，京都（2009.3）